

第一小学校

10月21日～10月23日(2泊3日)

○日程表

10月21日(火)		10月22日(水)		10月23日(木)	
8:15	出発式	6:00	起床	6:00	起床
11:00	「ぶどうの丘」到着・昼食	6:30	朝の会	6:30	朝の会
12:00	「ぶどうばたけ」到着	7:15	朝食	7:15	朝食・荷物整理・清掃
	事前学習発表・ぶどうもぎ体験		園内散策	8:30	草木染体験
14:00	大和自然学校到着	9:00	竜門峡ハイキング	10:30	ネイチャーゲーム
	開校式・避難訓練	12:30	昼食	12:00	昼食
15:00	ぶどうジャム作り		バスにて下山口園内散策	13:00	閉校式
17:40	夕食	14:30	ほうとう作り	13:30	出発
18:15	星空観察	17:00	夕食	15:30	学校着
19:30	学習の記録・入浴	18:15	学年レクリエーション	16:00	解散式・下校
20:30	健康観察・班長会	19:30	学習の記録・入浴		
21:00	就寝	20:30	健康観察・班長会		
		21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

けやきの時間（総合的な学習の時間）を使って、プレセカンドスクールの目標や集団生活における注意点、係活動についての話し合い、各体験活動における調べ学習を行った。

(i) プレセカンドスクールへ向けてのガイダンス

初めての宿泊行事に向け、目標の設定とルール決め、必要な係活動についての話し合いを行い、児童の自主的な活動を促すようにした。また日程表の中から、事前に学習しておかなければいけないことを話し合い、6つの学習テーマに分かれて課題別学習を進めるようにした。

(ii) 課題別学習と現地での発表

「山梨県基本情報」「ぶどう作り」「竜門峡」「ほうとう」「秋の星空」「草木染め」の課題別グループによりインターネット、書籍で情報を収集し、模造紙にまとめる作業を行った。調べた内容は、往路のバスの中や現地での活動の前に発表し、児童一人ひとりに活動のポイントを周知させることにした。また、発表の内容を補足する形で講師の方にも講話をお願いした。

山梨県甲州市大和村・勝沼町

参加人数 男子25名 女子26名
計51名

② 事後の学習内容

- ・学年全体で活動の振り返りを行ったり、国語の時間に「プレセカンドスクールでの思い出」を作文にまとめた。その後、作品を読み合い、互いの成果を認め合った。
- ・けやきの時間に、事前に調べた内容や現地での生活を終えて分かったことや感じたことを「生活」「自然」「今後に生かしていきたいこと」などの観点でまとめ、児童が撮った写真と一緒に学校公開の時に保護者向けへ発表を行った。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、竜門峡ハイキング

ハイキングには、ガイドを4名依頼した。ハイキングの見所や野外活動の注意点（蜂や熊に出会ったときの対処法や準備運動）を事前に指導してもらい、大変役に立った。ハイキング中も動物の糞、植物の種類や根の様子、炭焼きの歴史、水辺に生きる小動物、岩を裂くような木々のパワーなどについて詳細な解説を受け2時間30分自然観察をじっくり行うことができた。比較的安心して歩けるコースだからこそガイドによる解説をお願いし、詳細に自然観察することができたのは大変有効であった。

2、星空観察

事前学習の内容を発表した後、学校長の解説を受けて、グラウンドにシートを敷き星空観察を行った。カシオペアや天の川、流れ星が観測でき、プラネタリウムで見たような星空を自分の肉眼で確かめることができたのは、子ども達に感動を与えた。園内の電灯を消灯してもらうこともでき、自然の暗やみを実感することもできた。

<学習体験活動>

1、ぶどうもぎ体験

ぶどうもぎ体験では、事前学習の内容を発表した後、山梨県とぶどう産業の歴史、ぶどう栽培の苦勞、ぶどうの種類と品質管理などについて園主より講義を受けた。また、ぶどうの味見をさせてもらい、品種と味の違いを実感することができた。園内には、ワインの醸造所もあり、ここの見学も取り入れればぶどうを加工した製品の様子も学習できるように感じた。

2、ほうとう作り

ほうとう作りでは、8班に分かれ調理を行った。約3時間にわたる作業となったが、自分で調理した料理を必死に口に運ぶ姿が見られた。自分で食すものを作るというのは、作業に真剣さを生んだ。また、生地をこねる・練り上げる、のばすという一連の作業工程は、「食す」までの大変さを実感することができた。協力してものを作る大切さが学ぶとともに、地元の「名人」にも来ていただくことができ、地域の人や特色ある食事に触れる機会となった。

3、草木染め

草木染めは、たまねぎの皮を使用して染色を行った。ビー玉や割りばしをつかった模様づくりは、仕上がりがどのようなになるか子ども達も興味津々であった。もの作りで終わるのではなく、身近な自然を生かした生活の知恵についても考える良い機会となった。染める材料を、綿のハンカチと指定したが、タオル地でもきれいに染まっていたため、一律に指定せずいろいろな材質のものを用意させてもおもしろいと感じた。

○児童の感想

- ・ほうとうは、前に初めて食べたときおいしかったので自分で作れないかな、と思っていたので、今回作り方が分かって、とてもいい体験ができました。(ほうとう作りから)
- ・竜門峡ハイキングでは、大きな石がケヤキの木で割られていたことに驚きました。自然の力はすごいと思いました。また、途中、3つの小さい滝が連続して流れていて、面白いと思いました。(竜門峡ハイキングから)
- ・自分で布団の上げ下ろしをしたことがなかったので、いい経験ができました。これからはおうちの手伝いを積極的にやりたいです。(学園での生活から)

○保護者の感想

- ・星空観察では、流れ星なども見る事ができたようで、東京ではできない貴重な体験がたくさんできたんだなと思いました。
- ・私は、まだ山梨県（甲州市）に行ったことがないので、皆さんの発表を聞いて一度行ってみたいと思いました。

○総合的な学習の時間との関連について

〈事 前〉

ガイダンスで、「宿泊行事を進めるに上で大切なこと」を投げかけ、児童自らが課題を設定し、学習の進め方などを考えられるようにした。特に、「宿泊による生活時間を活用し、生活上の自立に必要な知識・技能や生活習慣を身につけるとともに、一人一人の子どもの創意を喚起し、情操を養い、個性の伸長を図る」というねらいを重視し、「協力」の重要性を強調した。

その結果、係活動における責任感や班活動における協力の意識、児童の一人ひとりの判断力が高まった。課題別学習においても、見通しをもって取り組むことができ、調べた内容を詳細にまとめ、発表することができた。また、事前学習における情報収集や発表の活動を通して、パソコンに接する機会をつくることができ、機器の操作や活用の仕方を学ぶことができた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・初めての宿泊を伴う行事であるので、児童の不安を取り除くことが必要であった。不安材料の多くは、友達との人間関係にある。そこで今回は、グループ編成を行う前に、児童に宿泊行事の意義を十分説明し、留意点をあげた後にグループ編成をした。グループ編成については、いろいろな方法が考えられるが、子ども自身が納得できる方法・過程を踏むことが重要である。
- ・セカンドスクールでは、民宿に分泊する形をとっている。初めての宿泊行事が分泊という従来の形よりも、共同の施設に泊まり、学年を母体にした班活動を経験させておいた方が、次年度に向けて、集団生活におけるルールの徹底や精神面での不安の解消につながり、有効であると思われる。
- ・山梨県：勝沼町及び大和村は甲府盆地に位置し、果実栽培を中心とした農業が盛んである。山の斜面を農園作りや気候、品種、加工食品等について農家の方から話を聞いたりして、地域の特性を知ることができた。このことは、5年生の学習内容にある米作りや「我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色」に生かすことのできる内容である。

○次年度に向けての反省・課題

- ・プレセカンドスクールが「山」、セカンドスクールも「山」が主な活動のフィールドになっているため、今後「海ー山」などといった、2学年を見通した活動場所の開拓が課題である。
- ・活動予定を作成する際には、学園の周辺散策など、時間や内容に縛られない「自由な時間」があってよい。この時間があることで、仲間との結びつきを強めることができたり、児童個々の興味関心にそった探究求活動が可能になる。
- ・今回の宿舎「大和自然学校」は、4年生が初めての宿泊学習を行うには適している。しかし、1部屋（6畳）に5名が宿泊するのが限度であり、総勢60名を越えると、広間を使ったり、保健室が別館になってしまう。利用は80名を上限として引き継ぎを行う。
- ・実施踏査の折には、レンタカーの使用を是非お願いしたい。レンタカーの使用により、前年の踏襲から実施年の実情に基づいた、柔軟な計画が立てられるようになる。



【開校式の様子】



【ぶどうもぎの様子】

第二小学校

10月15日～10月17日(2泊3日)

○日程表

10月15日(水)		10月16日(木)		10月17日(金)	
7:30	出発式	6:00	起床	6:00	起床
11:15	野島の森(着)	6:30	朝会・体操	6:30	朝会・体操
11:30	昼食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	野島の森散策	9:30	地引網体験(那古海岸)	9:00	沖ノ島たんけん(沖ノ島)
14:45	開校式、避難訓練	12:00	昼食	11:30	昼食
15:00	房州うちわ作り	13:30	ビーチコーミング(沖ノ島)	12:15	閉校式
18:00	夕食	16:30	夕日鑑賞(ホテル前海岸)	16:00	学校着、解散式
19:00	入浴	18:00	夕食		
20:00	安房の語り部のお話を聞く	19:00	入浴		
21:00	就寝	20:00	海ホテル鑑賞会		
		21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・1学期の国語科および総合的な学習の時間に、館山の自然や歴史、昨年度のプレセカンドスクールの学習内容について調べ、「館山新聞」作りを行った。さらに、総合的な学習の時間に、新聞の発表会を行った。
- ・総合的な学習の時間に、館山観光協会の方に来ていただき館山市の概要や魅力についてのプレゼンテーションを視聴しながら学習した。さらに、館山市の「安房の語り部の会」の方から房州弁講座を聞いたり、「阿波節」を習って一緒に歌ったり、語りを聞いたりして、プレセカンドスクールへの期待や館山への親近感を抱かせた。
- ・総合的な学習の時間に、房州うちわの絵柄作りを事前に行った。
- ・総合的な学習の時間に、学習内容ごとに実行委員会を立ち上げ、その中で学習のルールやめあてなどを盛り込んだ「しおり」作りを行った。また、生活班ごとに係を分担して、同じように「しおり」作りを行い、始まりの会や終わりの会の練習を行った。
- ・音楽科では、現地の歌「レッツゴー沖ノ島」を振り付けと併せて歌い、現地のレクリエーションにも活かせるよう、学級の時間に練習を繰り返した。

② 事後の学習内容

- ・ プレセカンドスクールでのそれぞれの体験学習を、3日間の流れに沿って「学習内容」「そのとき感じたり思ったりしたこと」「全体の感想」に分けて作文にまとめ、学習を振り返るようにした。また、学習の実行委員ごとにその作文を使って、学習発表会の台本作りの資料として活用した。
- ・ 学習発表会では「プレセカンドスクール 2008」を題目にして、学習の実行委員ごとに、全員が役割を決めて、寸劇や歌などを盛り込んで練習を繰り返し、児童や保護者に向けて体験した内容を発表した。
- ・ 学習の実行委員ごとに、体験メモを基にして体験内容や分かったことなどをまとめ、学習新聞を作り、校内に掲示した。
- ・ 道徳の時間に、プレセカンドスクールの生活を振り返り、自分たちが成長した点、課題だった点を挙げ、今後どのように生活していくことが大切かを話し合った。
- ・ プレセカンドスクールで作った「房州うちわ」を西部コミュニケーションセンターに展示・発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、野鳥の森

館長さんから、「野鳥の森」の散策のポイントや注意事項などのガイダンスを聞くことで認識を深めた。散策（山登り）ではグループごとに助け合いながら行動し、野鳥や昆虫、植物など貴重な自然を観察すると共に、展望台から館山湾を望む眺望を楽しんだ。

2、夕日鑑賞会

館山湾に沈んでいく夕日を、じっくり時間をかけて鑑賞することで、普段見ることのできない自然現象の素晴らしさや偉大さを体感した。

3、ウミホタル観賞会

現地の人から、ウミホタルの生態や、戦争時代は発光信号として用いられていたという館山の歴史にまつわるお話を伺った。観賞会では、ウミホタルが発光する仕組みを聞いた後、発光する瞬間の様子を観察することで、美しさや不思議さを体感した。

4、沖ノ島の話・ビーチコーミング

現地のNPO法人「海の鑑定団」の方から島のガイダンスを聞き、生き物や自然についての話をうかがいながら島を散策した。ビーチコーミングでは宝贝やシーグラス、海からの漂流物

をめあてに一生懸命砂浜を探す姿が見られた。

5、沖ノ島たんけん

海の生き物や自然を探すネイチャーゲームを行い、グループで夢中になって課題になるものを探す姿が見られた。後半はビーチコーミングを行い、宝贝やシーグラスなど海ならではの自然を見つける活動を展開できるようにした。

<学習体験活動>

1、房州うちわ作り

地元の伝統工芸であり、日本の三大うちわでもある房州うちわ作りのビデオを視聴した後、職人さんから手ほどきを受けながら、うちわを作成した。細かい作業や匠の技を感じ取りながら、うちわ作りの精巧さや難しさ、素晴らしさを体感することができた。



【房州うちわ作り】

<生活体験活動>

1、地引き網体験

地元の漁師の方と一緒に網をまいて、魚が上がっていく様子を直に体験・観察しながら学習することができた。児童は魚が捕れるごとに大興奮しながら学習を進めることができた。捕れた魚は漁師さんから名前や生態などについて説明を受けた。さらにスズキやイナダ、イカ、タイなどのとれた魚を夕食のおかずにして、食事を楽しんだ。



【地引き網体験】

<地域の人々とのふれあい>

1、安房の語り部

地元の語り部「桜貝の会」の皆さんを講師として招き、「民話」を聞いたり、「民謡」を教えていただいて歌ったり、「尺八」や「ホラ貝」の音を鑑賞したりした。館山の人々とのふれあいによって、風土や地域性の理解を深めた。

○児童の感想

- ・ビーチコーミングでは、岩の間に手を入れてみると何かが動いたので、見るとそこにカニが15匹以上隠れていました。そんなにカニをいっぱい見たことがないのでとってもうれしかったです。また行ってみたいくなりました。
- ・野鳥の森を登るのは大変でした。でも、がんばりました。見晴らしがとてもきれいでした。
- ・地引き網体験ではたくさんの魚がとれました。その中でスズキが80センチメートル位で1番大きかったです。夜ごはんでとった魚を食べることができてよかったです。
- ・房州うちわを作りました。骨組みや和紙にのりをつけて、うちわにはりました。出来上がったらかわいいだったのでうれしかったです。

- ・沖ノ島探検が終わってバスに乗ったとき、沖ノ島とはなれるのがさみしかったです。3日間とてもいい思い出になったと私は思いました。

○保護者の感想

- ・地引き網体験が1番楽しかったようです。過去2回体験したことがあったのですが、今回が1番楽しかったようで、スズキを持たせてもらったことをうれしそうに教えてくれました。
- ・話を聞けば聞くほど、いろいろな貴重な体験をさせていただいたのだなあ・・・と思います。自分たちで捕ったお魚はとても美味しかったです。
- ・3日間、生活班・行動班共、もめることもなく楽しく仲良く送ることができたそうで、十分満喫できたと話してくれました。また学習でもたくさん発見等があったようで色々話してくれました。

○総合的な学習の時間との関連について

2学期になって館山の自然や伝統工芸、現地の人々など学習内容ごとに実行委員のグループを作った。同じ学習グループの中で担当学習の事前の調べ学習、プレセカンドスクール期間中の司会進行、事後では学習発表会に向けた新聞作り、台本作りというまとめの学習に取り組み、活動している。

○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールに必要な基本的生活習慣・公共性・規律・集団行動のルール・マナーなど、親元から離れ、自ら行動できる素地をプレセカンドスクールにおいて養う。

○次年度に向けての反省・課題

夕食後に活動を計画したために就寝時間が遅くなった。入浴の時間も15分しかとれなかった。慌ただしく1日が終わりホテル内で落ち着いて行動することが難しかった。活動を見直し精選することが必要である。また、今年行った新しい活動の地引き網は、様々な魚が捕れ武蔵野では味わえない貴重な体験だったが、近くにトイレがなかったり、網を巻き上げる機械が危なかったり、次年度に向け観光協会の方と話し合い、改善する必要がある。

「セカンドスクールにつながるプレセカンドスクール」を前提として活動内容やねらいを全職員がさらに共通理解をして実施していきたい。

第三小学校

9月16日～9月18日(2泊3日)

○日程表

9月16日(火)		9月17日(水)		9月18日(木)	
8:00	学校集合・出発式	6:30	朝の会・湖畔散策	6:30	朝の会
11:30	富士5合目到着	9:00	紅葉台ハイキング 紅葉台展望台 →三湖台 →氷穴見学	9:30	閉校式
12:30	5合目トレッキング			10:00	ぶどう農園作業体験 ・収穫体験 ・木の皮むき体験 ・ぶどう保護カバービニール 清掃
16:00	ホテル着・開校式	15:30	ホテル着	15:30	学校到着・解散式
19:30	絵手紙書き	19:30	絵手紙コンテスト		
21:30	就寝	21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・学校での初めての宿泊体験ということで、児童は、「どんなところに行くのかな。」「何をしに行くのだろう。」など、初めはたくさんの疑問をもっていた。最初は期待よりも不安の方が大きい児童もいたが、宿泊体験のめあて、どこに何をしに行くのか、宿泊所での生活などを話していくうちに、「早く行ってみたい。」「友達と泊まるのはドキドキする。」とプレセカンドスクールを楽しみにするようになった。
- ・体験活動を充実させるために、総合的な学習の時間に体験場所の調べ学習を行った。自分で調べたい内容を選択し、調べたことを新聞にまとめる活動を行った。選択テーマは、富士山の気候・動植物・成り立ち、富士五湖、氷穴、ぶどうの種類・収穫までの作業である。児童一人ひとりがまとめた新聞はクラスごとに1冊の本にし、プレセカンドスクールの資料として活用した。
- ・児童が作成したプレセカンド資料を用い、全体で確認したい内容について取り上げて説明した。児童がまとめたものなのでわかりやすく、身近に感じ、説明を聞いたり学習を深めたりすることができた。

山梨県南都留郡富士河口湖町

参加人数 男子43名 女子42名
計85名

① 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験の中でもっとも印象に残ったことを伝えるために、作文にまとめた。
- ・「プレセカンドスクールを3年生に伝えよう」という活動を総合的な学習の時間に行っている。ホテルでの生活・ハイキング・氷穴・ぶどう農園作業体験を伝えるグループに分かれ、模造紙にまとめたり、紙芝居にしたり、劇を演じたりしながら、グループごとに発表方法を工夫して取り組んだ。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、トレッキング

富士山5合目での昼食後、5合目から御中道トレッキングコースを通して奥庭前までの道のりを歩いた。富士山ボランティアセンターで4名の自然解説員をお願いし、4つのグループに分かれて3時間ほどで歩くことができた。自然解説員の話聞きながら、アカマツ、ダケカンバ、コケモモなどの富士山の植物を触ったり、森林限界や植物の話の聞いたり、火山岩を見たり触ったり、重さを比べたりしながら歩いた。富士山の歩き方についても大変詳しく、興味深い話を聞くことができた。児童は疑問に思ったことを自由に質問し、メモ用紙はわかったことでいっぱいになっていた。また、天候にも恵まれ、富士の頂上や、雲海などすばらしい景色を見ることができた。



【富士山から見る雲海】

2、ハイキング

ホテルから紅葉台の入り口までバスで移動し、紅葉台→三湖台→紅葉台（昼食）→氷穴のコースをハイキングした。すばらしい天候に恵まれ、紅葉台からは富士山の裾野が広がっている様子や広い樹海、周りの山々に比べて富士山が大変高い山であることがよく観察できた。また、宿泊ホテルのそばの河口湖以外の富士五湖の中の精進湖、西湖も眺めることができた。三湖台までの道のりは、前日の朝に降った雨でぬかるんで歩きにくい道だったが、児童はそれを楽しみながら登っていた。途中ころんではしまう子もいたが、笑顔で楽しんでいた。三湖台では、気持ちよい風を受けながら、30分間ほど自由な時間をとった。景色をよく見たり、土を掘って砂の様子を観察したり、岩石を集め重さや硬さを比べたりするなど、個々が楽しみながら学習す

ることができた。昼食はトイレがある紅葉台に戻り、班ごとにテーブルで落ち着いて食べることができた。氷穴まではずっと下りだったので、子どもたちは「つかれた」という言葉を漏らさず歩ききることができた。

3、氷穴見学

ハイキングの後に氷穴見学を行った。穴の奥に向かって行くに従ってどんどん寒くなるのを肌で感じることができた。また、暗く、天井が低くなっている様子は探検をしているようで、児童も興味をもって見学していた。特に、氷が溶けずに残っている様子やどこまで続いているかわからない地獄穴は、帰校してからの作文に書かれるほど児童の心に残っていた。



【氷穴見学の様子】

<農業体験活動>

1、ぶどう農園作業体験

3日目は雨が降っていたが、ぶどう園の方々が児童の到着前に、雨よけのためにぶどうの棚の上に透明なビニルシートを張ってくれていたため、雨天の中でも落ち着いて作業することができた。作業は、雨天の関係で順序の変更があり、収穫作業をした後に2つのグループに分かれ、木の皮むきの作業とぶどう保護カバービニールふきの作業を途中で入れ替えて行った。

収穫体験では、児童は初めて間近で巨峰になっているのを見て、巨峰の粒の大きさに驚いたり、粒一つ一つの美しさに感動したりしていた。また、収穫したぶどうを自分で運びながら、実の重さを実感していた。木の皮むきは、木の幹と皮の間に害虫が入らないように、幹に薬を塗るために行う作業で、児童は皮の長さや太さ、むきかたのきれいさを競って楽しんでいた。ほとんどの児童が40分間、飽きることなく最後まで熱心に取り組むことができた。ビニールふき作業は、雨除けなどのためにぶどうにかけられていたビニールを再利用するために、ビニール袋をきれいに雑巾でふく作業で、児童の中には「リユースしているんだね。」と社会科のごみの学習を思い出し、真剣に作業に取り組んでいた。

○児童の感想

- ・プレセカンドスクールは家族旅行のような自由な時間はないけれど、たくさんの友達と毎日生活することができて楽しかった。
- ・富士山のトレッキングで山道を歩いているのは大変でしたが、森を抜け、広い場所に出たとき目の前に広がる雲海や青空を見た瞬間、疲れがふきとびました。すばらしい景色をみることができ、幸せでした。
- ・氷穴の奥の地獄穴には、どこまで続いているか分からないと書いてありました。中がどうなっているのか知りたくてたまらないので、大人になったらまた見に来て地獄穴に入り、中はどうなっているのか自分の目で見たいです。

○保護者の感想

- ・準備をしているときに、進んで自分で用意したり必要な物が何かを言ってきたりと、自立を感じました。
- ・自分たちで2泊3日生活することで、家に戻ってきてからも家のことを進んでするようになりました。続くといいのですが。
- ・学校生活と違って友達と密に接することで、我慢ができるようになったように感じます。困ったことがあっても、我慢したり人に相談したりと自分で考えて行動できるようになりました。成長を感じます。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・事前学習から、当日の活動まですべて総合的な学習の時間で取り組んだ。事前学習では、富士山と富士五湖、ブドウについての調べ学習を行った。資料をもとに、調べたことを1枚にまとめ、クラスごとに本にした。プレセカンドスクール終了後は、「3年生にプレセカンドスクールを伝えよう」という学習を行った。富士山、湖、ホテルでの生活、ブドウ、登山の5つの内容についてグループごとに調べた。3年生にわかりやすく伝えるように、劇や紙芝居、模造紙にまとめるなどグループごとに工夫してまとめ、伝える会を行った。

○セカンドスクールとの関連について

- ・富士山トレッキングでは、ガイドの方の話を聞きながら歩いたので自然にふれながら、富士山のでき方や火山の様子、植物などの話を聞きながら学習を深めることができた。
- ・ぶどう栽培農家では、ブドウにかけるビニールを拭いたり木の皮をむいたりすることで農家の大変さを体験できた。また、ぶどうについても詳しく話を聞き、学ぶことができた。
- ・集団行動を通して、時間を守ることなどの生活の基礎基本を大切にする態度が身に付き、学校生活にも活かすことができたため、セカンドスクールへとつなげていきたい。

○次年度に向けての反省・課題

- ・体験的な活動が計画しにくく、地元の人々との交流をする機会がないため、場所の変更を考える必要がある。
- ・雨天時の活動は計画できるが、その際の昼食場所が確保できていない。雨天時の活動計画を細かく立てる必要がある。
- ・今回の人数では、部屋が狭く、喘息などが出てしまった。来年度は、児童の人数が少ないため大丈夫だが、再来年度は宿泊施設も変えなければならない。

第四小学校

10月15日～10月17日(2泊3日)

○日程表

10月15日(水)		10月16日(木)		10月17日(金)	
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	片品村東小川着、開校式	8:30	きのこ狩り	8:30	りんご狩り体験
12:00	昼食	11:00	体験館に移動	11:00	野菜の収穫体験
13:00	稲刈り体験	11:15	うどん作り体験	11:45	昼食(おやき作り体験)
15:00	わくわく体験館周辺散策	15:00	花豆収穫体験	12:15	荷物整理、清掃
16:00	各宿に移動し顔合わせ	16:00	各宿に移動・宿の方からのお話	13:00	閉校式、片品村出発
18:00	夕食	18:00	夕食	16:30	学校到着、到着式
19:30	入浴	19:00	入浴	17:00	解散
20:30	健康観察・学習の記録	19:45	宿の方への手紙、学習の記録		
21:00	次の日の準備、就寝準備	21:00	健康観察・就寝準備		
21:30	消灯	21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてについて
- ・集団での宿泊に関する心構えについて
- ・グループ編成と係の仕事について
- ・持ち物について
- ・群馬県片品村について
- ・しおりの活用の仕方とスケジュールについて

② 事後の学習内容

プレセカンドスクールでの3日間の体験と感動を、学校公開日に行ったプレセカンドスクール発表会で第3学年の児童と保護者に対して発表した。発表に向けて課題を選んで調べ、調べたこと・体験したことを分かりやすく伝えるための発表方法(文の組み立てやレイアウト、写真等の資料の活用)を考え、工夫してポスターセッションを行った。

《発表の内容》

- 片品村全体
- 稲刈り体験
- きのこ狩り
- うどん作り体験
- 花豆収穫体験
- りんご狩り
- 片品村の野菜
- 片品村の生き物

群馬県利根郡片品村(東小川地区)

参加人数 男子35名 女子27名
計62名

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、稲刈り体験

黄金の田んぼの中で初めて鎌を持ち、ざくざくと刈り取り、束ね、天日干しのために掛ける、という一連の作業に興味を持って一生懸命やり続けた。稲刈り機の体験や、田の周辺でイナゴなどの虫取りも時間を忘れて楽しんだ。

2、きのこ狩り体験

クラスで分かれ、山の斜面に沿って、1時間ほどきのこを探しながら歩いた。目が慣れてくるときのこをたくさん見つけられるようになり、夢中になって探していた。きのこが生えやすい場所や、きのこの採り方なども教わりながら活動した。

一生懸命探ったきのこを最後に食べられるものと食べられないものとに分けたが、食べられるきのこが一つもなかったことを残念に思いながらも、自然の恵みの尊さを感じていた。

3、りんご狩り体験

澄みきった青空をバックに、真っ赤に色づいた赤城をもいでその場で味わった。その後、学校で静物画にするためのモデルを選び、収穫した。学校に戻ってから、実物をよく見て絵を描いた。出来上がった作品には、心と力がこもっていて上々のできばえだった。

4、花豆収穫体験

片品村の特産品である花豆を収穫し、さやから出すという作業を行った。何度か給食で食べたことがある食材ではあるが、実際に花豆の実がなっている様子やつるがのびている様子を見ることができ、児童には珍しい体験となっていた。収穫できるかどうかを自分で判断しながら熱心に収穫し、一つも豆を取り残さないように丁寧に作業していた。

5、野菜の収穫体験

片品村の代表的な農作物である大根を引き抜くという作業をした。大きな葉のついた太い大根が意外にも簡単にスポッと抜けて、大喜びだった。大きさや重さは宿まで持ち帰ることで十分体感できた。また、とうもろこしの収穫では、十分実っているものの見分け方も覚えた。



【うどん作り体験】

＜学習体験活動＞

- ・各宿で、片品村について、冬の生活について、野菜を作る作業などについてのお話をうかがい、児童の質問に答えていただいた。
- ・きのこ狩り体験では、きのこ名人にきのこの種類や、毒キノコの見分け方、きのこを見つけ

る時のポイントなどを教えていただいた。

- ・稲刈り体験では、片品村で作っている米の品種や、食べ物大切さを教えていただいた。
- ・りんご狩り体験や野菜収穫体験で、片品村で作られている特産物を教えていただいた。

＜生活体験活動＞

- ・初めて会った方にお世話になる体験をすることで、自分のことを自分自身でしたり、友達と協力しながら生活することを学んだり、他人に親切にしてもらう温かさを知ることができた。
- ・細かい荷物の管理、食事やお風呂でのマナー、宿での過ごし方を体験することで、セカンドスクールへの見通しを持つことができた。
- ・実際に集団での宿泊体験をすることで、友達と寝泊りし一緒に活動する楽しさを知り、セカンドスクールへの期待を持つことができた。

○児童の感想

- ・一番楽しかったいね刈りをしました。カマを使うのが、最初は大変だったけれど、少しやっていたらなれました。稲のたばをわらで結ぶ時のやりかたが分かって良かったです。
- ・いね刈りは、思っていたよりとても大変でした。刈ってはたばねて、刈ってはたばねて・・・そして干しました。この体験をしてから、もっとお米を大切にしようと思いました。
- ・いねかりが終わったと思ったら、今度はいねをほす作業をしました。その時に大きいコオロギやキアゲハのよう虫を見つけました。その時「自然はいいなあ。」と思いました。
- ・16日の昼にうどんを作りました。うどん作りの中で特に足でふむときが一番楽しかったです。ふみおわってきじをのばす時、ぼうでやると思ったらきかいでたてにのばしたからびっくりしました。でもやるときはおもしろかったです。
- ・ぼくは、宿のくらしが一番楽しかったです。宿では、男子女子わかれてくらししました。加藤先生が言っていた、味わったり、においをかいだり、さわったり、見たり、聞いたりというのが行ったときに伝わりました。また行きたいです。
- ・夜空は星がたくさんあり、夏の大三角形らしきものを見つけました。嬉しかったです。
- ・午後は花豆しゅうかくで、花豆というものをしゅうかくしました。花豆は黒とピンクのカラフルな色でした。
- ・今まで家族といっしょにりんごがりをしたことはあったけど、今回は、同じ班の人や同じ学年の人がいていっぱいしゃべれたりして楽しかったし、おもしろかったです。
- ・きのこがりでおもしろいきのこを見つけました。中が赤で外がピンクでした。ぼくはきのこでもたくさん種類があるんだなと思いました。
- ・家にもどって家の夕ごはんにはリンゴととうもろこしを食べました。とってもおいしかったです。ねる時に片品村に一週間以上いたかったなと思いました。
- ・楽しかったことの一つ目は、りんごがりです。おいしいりんごがまるかじりできたので、おいしかったのがもっとおいしくなりました。
- ・うどん作りは初めてなので、とてもきんちょうしてうまくできるか心配でした。けれど、みんな協力し合っておいしいうどんが作れました。なので、みんなで協力しないといけな

んだなあと思いました。

○保護者の感想

- ・しおりに従って計画されたプログラムを想像しながら一人で荷造りをしていました。帰宅後は、「あと3日くらいはいたかったなあ」と、あっという間にプレセカンドが終わって残念、でも楽しかった様子でした。お友達と習慣や意見が違ったり、仲良くしたりと、切磋琢磨して有意義な活動になったのだと思います。
- ・とても楽しみにしていて積極的に準備しました。帰宅した日は疲れていて口は重かったですが、お土産の野菜やりんごのエピソードなどは、笑顔で話してくれました。親から離れて生活するという良い体験ができたと思います。
- ・「楽しかった」と繰り返し言いますが、“楽しい”以上に“貴重な体験をしてきた”という充実感が表情や土産話からあふれてきました。「帰りたくなかったのに…」とぼやきながらもほっとした表情がかわいかったです。

○総合的な学習の時間との関連について

「出会いふれあいプレセカンドスクール」という単元設定をしているが、児童の実態から、まずは現地に行き自然の中での体験そのものを最重要視した。事前学習では、現地での生活や集団行動について学ぶことに主眼を置き、友達や指導員、宿の方たちとの現地での体験に期待が持てるようにした。

事後は、学校公開日に第3学年の児童と保護者に対して、課題別でポスターセッションに取り組んだ。

○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールの前段階として、短期間の宿泊を体験することを通して、セカンドスクールに対する思いを強くもつことをねらう中で、宿の方々とのふれあいを大切にする心や、進んで自然と親しもうとする心、集団生活上の基本的なマナーやルールを大切にする態度を育むことに重点を置いた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・きのこ狩りでは食べることのできるきのこが一つもなく、野菜収穫も旬の時期を少し過ぎていたのもあったため、次年度はプログラムの見直しが必要である。
- ・看護師はセカンドや日光などで度々本校に来ていただいている方なので、児童の様子をよく把握して、心身両面から適切な処置をしていただき、何よりの大きな力を発揮していただいで助けられた。また、教員との意思疎通もよくとれ、一丸となって対応することができた。

第五小学校

10月22日～10月24日(2泊3日)

○日程表

10月22日(水)		10月23日(木)		10月24日(金)	
8:15	出発式	6:30	起床	6:30	起床
11:30	開校式	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	昼食(川場村SL広場)	8:45	自然観察(虚空蔵山)	8:45	農作業体験 りんご狩り
13:00	川場村散策	12:00	昼食	10:45	木工工房見学
15:30	避難訓練	13:15	酪農体験(川田牧場)	12:00	昼食
16:45	入浴	16:45	入浴	13:00	閉校式
18:00	夕食	18:00	夕食	16:15	解散式
19:00	星の観察	19:00	日記書き		
19:50	日記書き	21:00	消灯		
21:00	消灯				

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

群馬県利根郡川場村は5年生のセカンドスクールの実施地でもある。

事前の学習として、3年生のときに、当時の4年生の「プレセカンドスクール報告会」を聞いている。そこで子どもたちは、各活動の報告についてメモを取りながら聞き、川場村でのおおよその活動内容を知った。そして今年度の1学期には、5年生の「セカンドスクール報告会」で活動について聞くことができ、さらに川場村の様子について興味を深めた。

2学期になり、活動の内容をしおりで確認した。また、活動の中から、自分がテーマとして調べていくものを決め、その活動に関することを図書室や図書館(私たちの川場村という社会科副読本を貸し出ししてもらった)の本で調べたり、インターネットで検索したりして情報を集めた。

班編制はクラスごとに3つずつ合計6つの活動班(部屋割り班は活動班を男女別にして)を編成した。その後、活動班の係を決めたり、班の目標を決めたりして、より行動しやすいように工夫した。

初めての宿泊行事であり、全体指導として、集団活動で大切なことを始め、部屋での過ごし方や、宿泊を伴う際のきまりなどの大切さを指導した。また、プレセカンドスクールから帰ってきてからは、3年生と保護者に向けて発表会を実施することも伝えた。

群馬県利根郡川場村

参加人数 男子20名女子29名
計49名

② 事後の学習内容

3日間の活動記録をもとに、一人一人、自分がテーマに設定したことを、国語で学習した「アップとルーズ」の視点でまとめた。その際は、活動中に自分たちで撮影した写真を使い、自分たちがメモしたことを中心にまとめた。その後、課題ごとにグループ編成をし、各自がまとめたものを紹介し合い、自分たちの発表の計画を立て、まとめる活動に取り組んだ。子どもたちが決めた発表のしかたは、模造紙を用いたポスターセッションの方式、紙芝居の方式、模擬体験の方式などであった。班ごとに、何を中心に紹介するのか、どの写真をつかったら内容が効果的に伝えられるかなどを話し合い、役割分担をしてまとめることができた。12月には、3年生・保護者に向けての報告会を実施し、自分たちで取り組んだ活動を分かりやすく報告することができた。3年生にとってはプレセカンドスクールの事前学習を兼ねると同時に、学校全体としてセカンドスクールの在り方を3年生から5年生までの学年を通して系統付けて指導していけるように意図している。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、川場村を歩こう(村内散策)

川場村に着き、プレセカンドスクールの一番始めの活動として、『村内散策』を行った。子供たちは指導員と一緒に、富士山ビレッジからSLホテルまで、地図を見ながら自分たちで歩いて辿り着いた。その際に、愛宕山と岩観音をチェックポイントとし、必ずどちらかに立ち寄らせるようにした。また、「川場村でしか見ることのできないもの」、「秋を感じるもの」、「チェックポイントでの集合写真」など、必ず撮る写真を指定し、楽しみながら活動を行うことができた。子供たちは、足踏み道祖神や、牛舎、干された稲など、それぞれのグループで様々な写真を撮り、川場村を十分に満喫することができた。5年生のセカンドスクールでは、ほとんど車で移動となるため、様々なものを見ながら、村内をゆっくり歩いて回ることでできた今回の村内散策は、大変有意義な活動であった。

2、虚空蔵山ハイキング(自然観察)

2日目の午前中の活動として『自然観察』を行った。ここでは、川場村にある「虚空蔵山」に登りながら川場村の自然についての学習を行った。当日は4名のインストラクターの方に指導をお願いした。活動班を4つに分け、1グループに1人のインストラクターがつき、「虚空蔵山」の山頂を目指した。途中では、動植物の様子についての説明があり、自然の中での動植物の生き方について学ぶことができた。実際に多くの植物にじかに触れ、自然を身近に感じることができた。ほおの木の葉の大きさ比べを行ったり、木の実やきのこを見つけては、インストラクターに聞いたりする場面も多く見られた。また、頂上の展望台からは川場村一带を見ることができ、土地の高低に気付いたり、1日目に自分たちが歩いた行程を確認したりすることができた。

<学習体験活動>

1、星空の観察

1日目の夕食後は、ホテルSLのそばにあるふれあい橋の下まで歩いて行き、そこで秋の星空を察す

る予定であった。事前に星座早見を使って、どんな星座が見えるのか確認をしていたが、当日は曇り空であったため、星空観察は断念し、夜の川場村の散歩を行った。耳をすませ、東京では聞くことのできない川の流れの音や虫の音に気付くことができ、環境の違いを実感することができた。

2、酪農体験(乳搾り)

2日目の午後は、「川田牧場」に行き、酪農についての学習を行った。牛舎に雑菌を持ち込まないように、子どもたちは長靴をはき、消毒をしてから活動に入った。

牛舎には約 90 頭の牛がいて間近に見た牛の大きさに子どもたちは驚きの表情を見せていた。乳しぼりを行う班と、酪農の話を聞く班の2つに分かれ、交代して活動を行った。酪農の話では、搾乳後の経路について様々な施設を見せていただきながら学ぶことができた。

牧場の方に、くわしく説明していただくことができ、牛の体の仕組みについては驚き、興味深く聞いていた。また、乳搾り体験では、牛に直に触れることにより、命の大切さ、ぬくもりを感じ取ることができた。また活動の最後に殺菌済みの牛乳を味わい酪農見学を終えた。



【うまく搾れるかな？】

3、農作業体験(りんご狩り)

3日目の午前中には、宮田果樹園・関果樹園の2カ所に分かれ、りんご狩り体験を行った。もぎ取るりんごは、セカンドスクールで5年生が摘果作業をしたものである。りんごのもぎ方を教えてもらい、それぞれ自分でおいしそうなりんごを選び、楽しんで活動を行うことができた。りんごはその場で食し、みずみずしい味を堪能することができた。

りんごづくりの話では、川場村は果樹栽培にも適した土地であることや、りんごの種類や育てるときの苦労などを知ることができた。また、農薬についても話をいただき、食の安全について知識を深めることができた。



【上手にとれたよ】

4、木工工房見学(みみずく工房)

みみずく工房では、木材の乾燥から製造販売までを行っているため、始めに工房で作られた作品を見せていただいた。そのことで、その後の見学では、興味深く製品の加工工程を学ぶことができた。子どもたちは、木材の乾燥が大事で、とても時間がかかることに驚いたり、また、機械で木が切られる様子を興味深げに見たりし、川場村でたくさん見られた木々がどのような過程を経て、生活の中で使われているのかを知ることができた。

<生活体験活動>

初めて宿泊体験をする子どもたちが多かった。入浴の準備、荷物の整理整頓、布団の上げ下ろしにいたるまで、全て自分たちで行わなければならない。生活指導員のきめ細やかな指導をいただき、なんとか自分たちで協力しながら行うことができた。3日間の活動を通し、協力することや、自分のことは自分で行うことの大切さを学ぶことができた。また、集合時刻に間に合うように早めに行動することも意識するようになってきた。

○児童の感想

- ・川場村散策で、大きなフキを見つけました。写真をとったり、背比べをしたりしました。私と同じくらいの高さでした。その他にも、たくさんの果物や野菜を見つけて楽しかったです。
- ・虚空蔵山ハイキングでは、食べられる草を紹介してもらって、食べたり匂いをかいだりしました。頂上では霧が晴れて、景色がはっきり見えたのでよかったです。
- ・牛の乳はしわしわで、しぼりたての乳は生温かったです。帰る前に、牧場の人から温かい牛乳をくれました。飲んでみると、売っている牛乳とはちょっとだけ味が違っておいしかったです。

○保護者の感想

- ・初めての宿泊だったため、不安もありましたが、準備なども1人で張り切って行うことができました。友達と協力して過ごした3日間で、確かな我が子の成長を感じました。
- ・一つ一つの活動に驚き、喜び、発見があったようで、自分が体験してきたことを細かく教えてくれました。とてもよい経験となったようです。
- ・帰ってきてから、自分の持ち物を整理しようとする姿が見られるようになりました。

○総合的な学習の時間との関連について

本校の4年生の「総合的な学習の時間」の年間テーマは「環境を考えよう、自然に親しもう」となっている。プレセカンドスクールでは、「課題解決型学習」を意識し、自然について自ら課題を設定し、追究を行わせた。事前に本やインターネットを利用して自分のテーマに関する情報を集め、実際に現地で実体験をもとに理解を深めていく。さらに、同じテーマのグループごとに、わかったことをまとめ、3年生や保護者に発表する。そのことで、課題設定の力や、追求する力、まとめる力を育てるように、活動を展開していく。

○セカンドスクールとの関連について

本校では、プレセカンドスクールとセカンドスクールの実施地が同じである。これにより、子どもたちは、長期滞在であるセカンドスクールでも同じ土地に宿泊できるという安心感をもつことができる。また、4年生で共通体験したことが、5年生になった時、一人一課題を設定する際の一つのきっかけとなるであろうと考えられる。また、来年度からセカンドスクールの実施時期が秋となり同時期になるため、課題を設定しやすいように活動を工夫した。

○次年度に向けての反省・課題

今年度でのプレセカンドスクールは5年目となり、活動も定着してきている。どの活動にも子どもたちは積極的にかかわり、十分な満足感を感じることができた。さらに、来年度のセカンドスクールへの新たな期待をもつことができた。また、今年度は大きなけがや発熱もなく、参加した子どもたち全員が全ての活動を体験することができた。子どもたちは今回の活動をやり遂げたことが自信となり、ひとまわりたくましくなった。今後の課題としては、インストラクターとの事前打ち合わせの時間を確保することと、雨天時のプログラムを十分に打ち合わせることがあげられる。宿泊施設として利用していたSLホテルの来年以降の経営状況が未定のため、宿泊施設の確保も大きな課題となる。また、セカンドスクールが来年から秋の実施となり、プレセカンドスクールと同時期になるため、実施しながら、必要に応じて今後も活動内容を検討していく必要がある。

大野田小学校

10月8日～10日(2泊3日)

○日程表

10月8日(水)		10月9日(木)		10月10日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察・検温	6:00	起床・健康観察
8:00	学校出発	6:30	朝会・体操	6:30	朝会・体操
	首都高速(湾岸線)	7:00	朝食・活動の準備	7:00	朝食・荷物整理・部屋整理
9:45	うみほたる見学(トイレ休憩)	8:40	沖ノ島へ出発	8:40	房州うちわ作り始め
11:00	野鳥の森着(昼食・散策)		(探検・ビーチコーミング)		(ホテル内)
13:00	砂山着(サンドスキー)	12:35	宿舎に戻り昼食	11:00	房州うちわ作り終了
16:00	夕日海岸ホテル着	14:00	海の生き物の話(ホテル内)	11:15	閉校式
18:00	開校式・荷物整理・避難訓練		貝の標本作り	11:45	館山城着(昼食)
19:00	夕食	15:40	入浴	12:40	館山出発
20:00	入浴	18:00	夕食	11:40	海ほたる着(トイレ休憩)
	1日の反省・記録	19:30	ウミホタル観察	13:50	ウミホタル着(トイレ休憩)
21:00	荷物整理・班長会・健康観察	20:30	1日の反省・記録	15:20	学校着・解散式
	就寝準備・消灯		荷物整理・班長会・健康観察		
		21:00	就寝準備・消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてについて
- ・千葉県や館山市のようすについて
 - 千葉県や館山市の位置や土地のようす、歴史、特産物、産業などの特徴
 - 沖ノ島の土地のようす、自然のようす(植物・生き物など・夏の星座)
- ・房州うちわについて(夏休み中に下絵を描き、9月に図工でうちわの絵の作成を行った)
- ・東京湾の特色(アクアラインについて) ・首都高速道路、館山道などの交通について
- ・保健指導(体の成長の変化について、女子の初潮指導など)
- ・集団行動のルール・集団生活のマナーについて

② 事後の学習内容

- ・2泊3日の体験や課題学習について振り返り、作文などにまとめる。
- ・学習課題ごとにグループで体験活動のまとめを行い発表会を実施した。
- ・3学期、今の3年生に対してプレセカンドスクールについての説明会を行う予定である。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、砂山でのサンドスキー

サンドスキーは本校では初めての体験である。直前まで雨が降っていたため、うまく滑るかどうかが心配だったが、思いのほか児童は上手に下まで滑っていた。砂山の上から見ると、かなりの急傾斜で、児童も驚いていた。滑る前に、館山の観光協会の方に砂山ができた経緯などの説明があった。話によると今後10年か20年ほどでこの砂山はなくなるのではないかと、いうことであった。



【砂山でのサンドスキーは登るのが大変】

はじめはうまく滑れなかった児童も、友だちの滑り方を真似しながら体重のかけ方を覚え、徐々に滑れるようになった。滑ってからまた上に登るのが大変で、途中で疲れてしまう児童もいたが、身体をたくさん動かし、十分満足できたようである。

はじめはうまく滑れなかった児童も、友だちの滑り方を真似しながら体重のかけ方を覚え、徐々に滑れるようになった。滑ってからまた上に登るのが大変で、途中で疲れてしまう児童もいたが、身体をたくさん動かし、十分満足できたようである。

スキー用のそりは学校の総合的な学習の時間の予算で60台購入した。滑った後、衣類や靴、身体についた砂をはらうのが大変だったが、バスの乗務員の方も協力してくれた。

2、ビーチコーミング

当初は2日目午後に予定していたビーチコーミングだが、当日の満潮が午後2時のため午前中に変更して実施した。（干潮でなければ、潮だまりの観察ができない。）ホテルのマイクロバス3台に分乗して出発。児童の人数が多いため、2度に分けて送迎することになった。

当日は天気にも恵まれ、遠くの海まで見ることができた。館山の海の特徴や海流の影響、サンゴの話など、現地の「海辺の鑑定団」のガイドの方の説明を聞きながら、沖ノ島の海辺を探索して歩いた。児童が次々と持ってくる海草や貝殻の名前を、「海辺の鑑定団」の方が丁寧に教えてくれ、興味をもたせてくれた。児童は砂浜に無数にある貝殻の中から、珍しいタカラ貝を探したり、潮だまりのカニを捕まえたりして、夢中になって活動を楽しんだ。ここで拾った貝殻などを家へのおみやげにと持って帰る児童も多かった。当日午後からの貝の標本作りにもこの体験が生かされたようである。ただ、タカラ貝は、年々見つかりづらくなっているようで、3分の1くらいの児童しか見つけることができなかったようである。また、戦時中砲台となったという岸壁や真っ暗な洞窟は、大変興味深く観察していた。



【タカラ貝を見つけるぞ！沖ノ島でのビーチコーミング】

ここでは地層もはっきりと見られ、6年生の理科の学習でも生かされることと思う。こうした体験は、児童の自然への好奇心を引き出し、意義ある体験活動となったようだ。ただし、せっかく海辺に来ているのだから、説明は最低限にして児童がなるべく多く実際に活動する時間を保証した方がよかったと思う。細かな説明は、午後の「海の生物の話」でもできるのではないか。来年度は、その点も現地の方と十分な打ち合わせをした方がよいと思われる。

3、ウミホタル観察

2日目の夜、雲が出て星空観察はできなかったが、ホテルの方が捕まえてきてくれたウミホタルの観察会を実施した。はじめに、ホテルの方がウミホタルについての生態や人間との関わりなどを説明してくれた後、部屋を暗くしてたくさんのウミホタルの入ったパネル水槽に弱い電流を流すと、おびただしい数の海ホタルが一斉に美しい青色に発光し、子どもたちはその神秘的な光景に歓声をあげ、とても感動していた。ウミホタルを学習課題にして研究していた子どもが多かったが、実際に発光の様子を見ることができ、貴重な体験となった。

＜学習体験活動＞

1、アクアライン「うみほたる」見学

アクアラインについては事前にある程度学習して行った。海底トンネルと海上の自動車道の違いを目で見て比較したり、資料館「海めがね」で、トンネル内の換気の工夫やシールドマシンについて模型などで確かめたりすることができた。天気がいま一つで、「うみほたる」から東京湾の様子などが十分観察できなかったのが残念であった。

2、海の生物の話と貝の標本作り

2日目午後、ホテルに戻り、昼食後に海辺の鑑定団の方による、海の生き物の話と貝殻の標本作りを実施した。児童は、イルカや鯨の骨の実物などを間近に見て興味津々の様子であった。また、貝殻の標本作りは、説明がとても分かりやすく、どの子もすばらしい標本を作り、その活動を通して、貝の名前をすぐに覚えてしまう児童が多かった。そうした説明の中で、人間の活動と海との関係にも触れ、環境教育の一環としても意味のある内容であった。

＜生活体験活動＞

1、房州うちわ作り

房州うちわ作りは現地のうちわ職人の方に指導していただいた。児童があらかじめ学校で仕上げてきた表裏2枚の絵を使って作成し、一人ひとりが自分のうちわを自分の手で仕上げるこ

とができた。竹に糊を塗り竹の骨の間隔を調節する。竹の骨に絵を貼る。乾いたらへりに細い薄紙を貼って仕上げる。全 24 工程のうちの 3 工程だけであったが、なかなか難しく、手作りの大変さや伝統工芸のすばらしさを学ぶことができた。また、房州うちわの歴史や工程等については、待っている時間を有効に利用してビデオで学習することができ、伝統工芸品について理解を深めることができた。

○児童の感想

- ・ビーチコーミングでは、とても苦労したけど、タカラ貝とコトコト貝を拾えて良かったです。貝の標本作りでは、自分のオリジナルデザインでいい作品が作れてとても満足しました。
- ・ウミホテルが青く光っているところは本当にきれいでした。あんなきれいなものはもう人生では見られないのではないか、と思うくらいでした。ウミホテルの悲しい歴史も知りました。
- ・千葉県の伝統的工芸品である房州うちわを、実際に作ることができてとてもうれしかったです。あおいでみたら、風がとても涼しく感じました。職人さんたちの早技には驚きました。
- ・サンドスキーでは始めはうまくすべれなかったけど、友だちに教わって体重のかけ方がわかってきました。友だちといっしょにすべってころんで、2人で大声でゲラゲラ笑いました。

○保護者の感想

- ・初日は大雨警報が出ていたので楽しみにしていたサンドスキーができないかな、と残念に思っていました。雨に邪魔されることもなくすべての予定を実行できて本当に良かったと思いました。
- ・とびきりの笑顔で「ただいま！」と帰ってきました。眠りにつくまで途切れることなく土産話を聞かせてくれました。そのうれしそうな顔、キラキラした目。何より嬉しいお土産です。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・1学期に館山に自然や文化について簡単に調査し、それぞれが自らの課題を決めた。
- ・館山への交通、館山の自然、アクアライン等については、事前に学習して臨んだ。
- ・夏休みに館山について調べる活動をし、行く前に自由研究の発表会を行った。
- ・プレセカンド後に作文にまとめ、課題ごとのグループでまとめの発表会を実施した。
- ・3学期に『3年生に伝えよう』として、プレセカンドスクールの発表会を行う予定である。

○セカンドスクールとの関連について

- ・今回の自らの課題について下調べをし、現地で調査しまとめるという体験は、セカンドスクールでも十分に生かされると考える。
- ・学校行事として初めての集団宿泊体験は、子どもたちの自信と来年への期待につながった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・児童数および学級数の変更にともない、宿舍の部屋数や配置について早めに調整をしていく。
- ・雨天時プログラムを柔軟に実施するための予算措置を依頼していく。
- ・児童への指導内容に関して現地指導員との打ち合わせを十分に行っていく。

境南小学校

10月17日～10月19日(2泊3日)

○日程表

10月17日(金)		10月18日(土)		10月19日(日)	
6:00		6:00	起床、洗面	6:00	起床、洗面
7:45	学校集合		清掃活動		身の回り整理
8:15	学校出発	7:00	ふれあいタイム	7:00	清掃活動
9:30	談合坂 SA《トイレ休憩》	7:30	朝食	7:40	朝食
11:00	マスつり・ワサビ田見学	9:00	野鳥プロジェクト	8:30	荷物整理、点検
12:00	養鱒場にて昼食		遊歩道散策	9:00	退所式
13:00	陣馬の滝散策		(2グループ・交互に)	10:00	酪農体験
13:30	養鱒場出発	11:00	バードコール作り		[松下牧場にて]
14:00	宿舍到着入所式	12:00	昼食(お弁当)	12:00	昼食(パンとバターとおにぎり弁当)
14:30	たこあげ大会	13:00	ハイキング	13:15	松下牧場出発
	[朝霧アリーナにて]	16:00	身の回りの整理	14:30	談合坂 SA
15:00	館内入室・避難訓練	16:15	課題解決学習		《トイレ休憩》
17:00	ふれあいタイム	17:00	ふれあいタイム	16:00	学校到着、解散
17:30	係打ち合わせ・活動	17:30	係打ち合わせ・活動		
18:00	夕食	18:00	夕食		
19:00	プラネタリウム	19:00	星の観察		
20:00	検温、入浴 1日の振り返り	20:00	検温、入浴 1日の振り返り		
21:00	就寝準備、健康観察	21:00	就寝準備、健康観察		
21:30	就寝、消灯	21:30	就寝、消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間に、一人一人が調べてみたい課題を設定した。課題としては、「朝霧高原の野鳥」「魚(マス)」「牛の種類と特徴」「雲の特徴」「富士山について」「朝霧高原や日本の滝」があった。事前学習やプレセカンドスクール中の体験を通して課題解決に取り組んだ。
- ・プレセカンドスクールのめあてや活動内容とともに、集団で行う宿泊行事に関するルールやエチケット、心がまえ等を指導した。
- ・図画工作科の時間に、プレセカンドスクール中に揚げるという目的で凧を作った。広い芝生で凧揚げをするのを楽しみに、大変意欲的に取り組んでいた。また、バードコールを現地で実施する野鳥プロジェクトの野鳥観察時に使うため、完成手前まで授業で作っておいた。

② 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間に、「朝霧高原わくわく調査隊」を設定し、自分の課題について、現地で分かったこと、感じたこと、さらに調べ直してみたいことを中心に、引き続き調べた。発表会を行うことを目的に、実施前から調べていたことと合わせて、自分たちの伝えたいことに焦点をしばらくグループごとにまとめた。図に表したり、大事なことを大きく書き表したり、絵やイラストを入れたりしてまとめた。グループごとに発表の練習をして聞き合い、お互いにアドバイスをし合うなど、伝えたいことがはっきりと分かるように発表の工夫をした。12月19日に、来年度プレセカンドスクールに行く3年生や保護者を招待して、課題発表会を行う。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、マスつり体験

富士山の湧き水を生かして行われている養鱒場で、マスつり体験を行った。自分で釣り針に餌をつけ、釣れた魚を針から外すという体験が初めてという児童が多く苦労していた。針にかえしが付いていないため、釣り上げるときに逃げられてしまう児童が多かった。何度も釣り糸をたれていたが、最終的には全員が釣り上げることができた。その場で内臓を取り除いてもらい、自分達で焼いたものを弁当と共に食べた。マスの身を食べた後は、さらに骨までしっかり焼き直して食べ、「命をいただく」という気持ちでむだなく食べる児童が多かった。「自分で釣ったマスはおいしい」と普段は魚をあまり食べない児童もおいしそうに食べていた。

2、凧揚げ大会

宿舎近くの電線一つない広い朝霧アリーナで、走り回っての凧揚げとなった。持って行った凧は、事前に図工の学習で一人一人が作った凧である。凧の形を昨年度の反省から変えたことで、どの児童も空高く揚げることで満足していた。自然の中で思い切り走り回りながらの凧揚げは、自然を楽しむ良い時間になった。

3、野鳥プロジェクト

全体を2グループに分けて活動した。1つは室内で日本野鳥の会の方を講師に、野鳥を見つける視点や野鳥の種類・習性、野鳥が食べる植物や実などを教えていただくグループである。もう1つは、実際に双眼鏡を持って宿舎周辺を野鳥観察に出かけるグループである。1時間で活動を交代し、野鳥観察の楽しさを体験できた。残念ながら、季節、時刻の関係で野鳥の数が少なく、見付けることができなかった児童もいた。しかし、今回教えていただいたことを基に、「東京でも野鳥を探したい。」という関心意欲が高まり、充実した活動になった。

4、ハイキング

学習グループごとに宿舎の遊歩道から、松下牧場を抜けて広大な牧草地をゆったりと歩いた。途中で雄大な富士山をスケッチし、大自然を感じながらのハイキングであった。男子も女子も虫探しに夢中になったり、珍しい植物を見つけて観察したりするなど、自然と親しみ、また自然を満喫する、とてもよい時間となった。

<学習体験活動>

1、ワサビ田見学

マス釣り場の隣にあるワサビ田を見学しながら、ワサビ作りについてお話を伺った。富士山の雪解け水がきれいで冷たいこと、ワサビはきれいな水がなければ栽培できないことを知った。また、実際にワサビ田からワサビを抜いて、葉をかじらせてもらったり、ワサビを摺り下ろしてなめさせてもらったりした。本物のワサビの味は、児童にとって新鮮な驚きだった。

2、プラネタリウム

朝霧高原で見ることのできる秋の星空をプラネタリウムで学習した。1学期に星の学習はしているが、星の実際の動きを見たり、星座の話を聞いたりして、星に対する興味を一層持たせることができた。また、富士の四季折々の映像も見て、雄大な富士の自然を学んだ。

3、バードコール作り

バードコールは、学校で途中まで作成しておき、現地で色を塗って完成させた。富士山を描き込んだり、牛を描き込んだりして自分だけの作品に仕上げた。ハイキングの時に音を鳴らして野鳥を呼び寄せ、本物の野鳥のさえずりを楽しんでいた。

4、酪農体験

松下牧場では、牛の感染病予防のために靴の上にビニール袋をはいて体験を行った。このことから、衛生面に十分注意しているのが児童達に伝わった。

最初に松下牧場の方から、「牛の種類」「乳牛の一生」などの説明や、体験する際の注意があった。その後、グループごとに乳搾りと、牛舎でのブラシかけの活動を行った。初めて間近で見る牛に恐怖を感じる児童もいたが、周りの友達の声かけによって体験を進めることができた。実際にブラッシングや掃除、えさやり、乳絞りを体験することにより、牛の世話の大変さや牛の温かさを感じる事ができた。

昼食時には牧場で絞られた牛乳を使い、バター作りに挑戦した。できたバターをパンに塗って食べることにより、自分達の食生活とも深くつながっていることも感じた。最後に牧場の方から牛の一生について教わり、命の大切さを改めて考えることができた。



【酪農体験】

○児童の感想

- ・富士山の大きさにびっくりしました。夕焼けに染まった富士山、朝日が顔を出してくる富士山はとてもきれいでした。
- ・マスが針にかかった時の手ごたえにはびっくりしました。釣り上げたマスは、えさと針を飲み込んでいてエラからたくさんの血を流していたのでびっくりしました。針を外そうと押さえたら、血の臭いや体のヌルヌルが少し気持ち悪かったです。ようやくつりあげたマスの味は、東京で食べたものよりおいしかったです。
- ・今までワサビは辛いものだと思っていたけれど、本物をすりおろしてなめると初めは甘いことがわかりました。
- ・最初に牛舎に入った時は、においが気になりました。でも、牛にえさをやったらいっぱい食べてくれ、うれしくなって何回もスコップでえさやりをしました。牛の体に触ると温かかったので、何度も触りました。牛舎から出るころには、においが気にならなくなりました。

○保護者の感想

初めて家族から離れてのお泊まりで、何日も前から緊張していました。乗り物に弱く、魚釣り・お風呂・食事など、すべてが心配の種だったようです。でも、帰ってくると「すごく楽しかった。もっとプレセカンドに行っていたかった。」と報告してくれました。家族旅行では味わえない体験が味わえて、セカンドスクールに対してずっと前向きになりました。

○総合的な学習の時間との関連について

1学期に『給食から見える世界』の単元を学習し、食の大切さについて学んだ。マスつり体験や酪農体験の中に食べる活動を入れたことで、1学期の食育を実感できた。また、自分で課題を設定し、調べ学習を進め、調べたことの中から伝えたいことを選び、それを中心にしてまとめ、発表の仕方を工夫するという学習をした。課題追究学習の基礎を学ぶ機会となった。

○セカンドスクールとの関連について

事前指導で、来年度実施するセカンドスクールの練習であることを伝えた。集団生活を行う上で全員が楽しく気持ちよく過ごすために大切なことは何かを十分に考えさせ、事前準備の段階からそのことを意識させて取り組ませた。クラスを越えて班を作り、いろいろな友達と協力して生活できるように事前の活動に取り組んだことにより、所属意識が高まった。

一人一人がそれぞれ課題をもち、それを追究する課題追究学習に取り組んだ。セカンドスクールで取り組むフィールドワークのよい練習になった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・日程に余裕があるように計画したので、武蔵野では体験できない自然をたっぷりと満喫し、充実した集団生活を送ることができた。さらに、夜の活動を再考していきたい。
- ・ワサビ田や野鳥プロジェクトの講師の方々が、実物を提示しながらとてもわかりやすく話してくださったので、児童達が十分興味をもって聞くことができた。

本宿小学校

10月15日～10月17日(2泊3日)

○日程表

10月15日(水)		10月16日(木)		10月17日(金)	
7:30	学校集合	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
8:00	出発(五日市街道より) ・練馬 IC(関越自動車道) ・上里 SA(トイレ休憩) (上信越自動車道へ)	7:00	清掃・朝食準備 朝食	7:00	清掃・朝食準備 朝食
11:00	豊田飯山 IC 開校式	9:00	泉台小学校との交流 ・交流会(学校紹介、ドッジボール大会、グループワークなど)	8:00	清掃・荷物整理
12:00	ウォークラリー 昼食	11:00	・稲刈り体験	8:30	農業体験(柿の収穫)
14:00	本部ゴール	12:00	昼食	10:00	干し柿作り
14:30	地域めぐり	13:00	・脱穀体験	11:30	昼食
17:30	夕食準備	14:00	泉台小4年生下校	12:30	閉校式
18:00	夕食	15:00	伝統料理作り	13:00	信濃平出発 豊田飯山 IC (上信越自動車へ) 高坂 SA(トイレ休憩)
19:00	宿泊行事の過ごし方	17:30	夕食準備	16:00	五日市街道到着
20:00	学習の記録 健康観察・入浴	18:00	夕食	17:00	学校解散
21:00	明日の準備 就寝・消灯	19:00	民宿の方との交流会		
		20:30	学習の記録 健康観察・入浴		
		21:30	明日の準備 就寝・消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・飯山市の場所・生活のようす・特産物(稲作)について理解する。
- ・飯山市の場所や生活のようすから、個人で課題を設定し、現地で解決できるようにした。
- ・プレセカンドスクールのめあてについて理解するとともに、集団行動のルールや集団生活のマナーについて話し合い、生活上のめあてを子どもたち自身で考え、設定した。
- ・泉台小学校の4年生への自己紹介カードを作り交換する。
- ・泉台小学校との交流会に向けた歌やレクリエーションの練習、準備。
- ・干し柿作りに向けた包丁の使い方、皮のむき方などを、栄養士の先生から指導してもらい、その後家庭で練習した。

長野県飯山市(信濃平地区)

参加人数 男子25名 女子16名
計41名

② 事後の学習内容

- ・ 2泊3日の飯山での生活を振り返り、感想を作文にまとめた。
- ・ 事前に設定した個人の課題について、現地での解決方法やわかったことを新聞にしてまとめ、発表した。
- ・ 後日送っていただいた干し柿を観察、賞味し、干す前と干したあとの変化について考える。また、干し柿の味の変化について調べ、昔から引き継がれてきた人の食に対する工夫について考える。
- ・ 3学期には、国語と総合的な学習の時間とを関連させ、交流をした泉台小学校の友達へ、冬の東京での生活の様子や本宿小学校の行事を紹介するビデオレターを作り、交流する予定。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、ウォークラリー

信濃平の広大な田を中心に、田んぼの中のあぜ道や、自分たちがお世話になる民宿や地域の神社などを回り、最後に現地のわき水を飲めるというコースを設定した。

基本的なコース図を渡した後は、帰宿時間のみ子どもに伝え、後は子どもの判断で自由に活動させた。地域の方に話しかけたり、カエルやイナゴを捕まえたり、藁の山に飛び込んだり、草花をつんだり、飯山の自然を体感することができ、子どもたちにとっては、大変楽しく、また意義のある活動となった。昼食も広大な田の中ほどでとったため、風に揺れる稲穂や紅葉がはじまった周辺の山々、田んぼの上に広がる広大な青空に目を丸くし、風の強さからにおいまで、東京との違いを感じていた。予定よりも早くゴールした班もあったが、さっそく田んぼでカエルとりや、あぜに生えていたノビルをかじってみたりと、時間いっぱい自然とふれあっていた。



【稲藁の山の上で】

<学習体験活動>

1、地域めぐり

飯山市信濃平の、民宿周辺を自分たちの課題を持って歩きながら、校長先生から雪国での生活の様子や工夫について説明していただいた。豪雪地帯ならではの家の作り、道路の作り、非常時の対応方法など、実物を見ながらの学習に、子供は真剣に聞きいていた。この学習で子どもたちはさらに疑問を持ち、夜の宿の方との交流では、積極的に質問していた。

2、泉台小学校との交流会

毎年セカンドスクールでも交流している泉台小学校の4年生と交流会をもった。ドッジボールなどのゲームのほか、自分たちの学校や地域の様子をクイズにして紹介もあった。その後、農業体験や昼食も合同の班でとった。はじめは堅い雰囲気であったが、昼食のあたりには打ちとけはじめ、休憩時間には、互いに名前やあだ名で呼び合いながら遊び始めた。1年後、5年生でのセカンドスクールで再開することを約束して交流会を終了した。ドッジボールは残念ながら惜敗したが、来年、雪辱を果たすことを目標とし、友情を深めることができた。いつまでも泉台小のバスを追いかけて走る子どもの姿が印象深かった。



【泉台小と交流会】

3、稲刈り体験、脱穀体験

5年生がセカンドスクールで6月に田植えをした稲を刈り取る作業を、泉台小の4年生といっしょに行った。新しい友人と共に楽しく作業できた。泉台小の子どもはすでに体験したことのある子どもが多く、その手際よさに驚きつつ、教えてもらいながらの活動はより子どもたちの親交を深めた。稲を刈る感触が、思ったよりも軽く刈れることに驚きを感じていた子どももいた。コンバインでの稲刈りを実演していただいたが、苦労して刈り取った田も、コンバインが出るとあっという間に稲刈りが終わり、脱穀までされることを知り、昔の人の苦労とともに機械の便利さを知ることができた体験だった。



【泉台小一緒にと農業体験】

<生活体験活動>

1、干し柿作り

甘柿を民宿の方といっしょにとりに行き、食べた。頭上から落ちてくる甘柿に子どもの歓声があがる。採ったばかりの甘柿をその場でほおぼり、自然の甘さを感じる。飯山の自然の豊かさを体験できた。その後、民宿のお母さんに教えてもらいながら、渋柿で干し柿作りを行った。事前に学校や家庭で果物の皮むきの練習をしてきたので、どの子も注意深く包丁を扱い、丁寧に皮を向いて紐で結び干すことができた。約1ヶ月後、送られてきた柿は見事に干し柿になっており、みんなで味わった。あの渋柿がこんなに甘くなったのかと驚きに包まれた。

○ 児童の感想

- ・僕が飯山に来て、最初に友達になったのはカエルでした。
- ・コンバインでの稲刈りとだっこくを見ました。コンバインはすごいいきおいでだっこくしていきます。終わったあとにコンバインの中を見せてもらおうと、だっこく体験で使った器械と同じものが中にありました。

- ・たんぼのあぜに「ノビル」という草があり、先生から食べられることを教わりました。1本きれいに洗ってかじってみると、なんだかからいような、しぶいような味がしました。

○保護者の感想

- ・家に帰ってきて、食事の後片付けを積極的に手伝ってくれるようになりました。普段、自分を世話してくれる人がいるありがたさに気付いたようです。
- ・普段、味わえない自然体験が強烈だったようで、カエルをバケツいっぱいにとったことや田んぼに落ちこちたことを興奮しながら語っていました。
- ・武蔵野ジャンボリーと同じ2泊3日で、それも民泊泊なのに、ずっと疲れて帰ってきました。話を聞くに、おそらく朝から晩まで全力で体験活動に没頭していたんだと思います。5年生のセカンドスクールが待ちきれない様子です。

○総合的な学習の時間との関連について

事前の学習では飯山という場所や雪国の生活の様子に興味を持たせるため、写真を見て疑問を引き出し個人の課題を設定するようにした。また行動班や生活班を決めたり、一人一役の役割を分担することで、自分の役割に責任を持って行動できるよう意欲を持たせた。また、交流会を持つ泉台小の4年生に事前に自己紹介カードを送ることで、次年度にも続く交流への意欲を高めることができた。

事後の学習では、解決してきた個人の課題について、解決方法とわかったことを新聞にまとめて発表した。また、3学期には、東京と飯山の冬の生活を紹介しあうため、ビデオレターを作って交流し、次年度へのつながりを意識させる。

○セカンドスクールとの関連について

5年生のセカンドスクールに向けての準備として、飯山という地域に慣れることや集団での生活の仕方を学ぶことができた。実施地民宿の方や泉台小学校との交流を通して飯山とのつながりを感じられたことで、意欲を持たせることができた。来年、同じ秋の飯山にて実施となるが、次回はさらに時間に余裕を持って交流や学習ができると思う。

○次年度に向けての反省・課題

次年度より、本校のプレセカンドスクールは六日町へ移行する。季節も秋から春になる。

今までは、4年生で稲刈り、5年生で田植えと稲作体験の順番が逆であったが、今後は修正される。六日町の体験活動も内容が豊富であり、新しい学習指導要領にも対応したより中身の濃い体験活動ができると期待される。

千川小学校

10月8日～10月10日(2泊3日)

○日程表

10月8日(水)		10月9日(木)		10月10日(金)	
7:40	学校出発	8:30	各民宿出発	8:30	各民宿出発
10:20	こんにやく工場見学 シクラメン栽培ハウス	9:00	森林館見学・木工教室	9:20	あきるのふるさと工房着 軍道と紙についての話を聞く
12:05	昼食・水生昆虫観察	10:50	浅間尾根オリエンテーリング・昼食	11:50	紙すき体験学習
15:30	民宿着 民宿の人への質問	15:30	民宿着	14:30	昼食 バス内で感想交流
19:00	学習の記録	19:00	学習の記録		学校着・解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- プレセカンドスクールでは何を学習するか、子どもに分かることばでねらいを設定し、各自の目標をもたせた。
 - ・山地でのくらしを学ぶ。
 - ・協力して、交友関係を深める。
 - ・生活のきまりを守る。(あいさつ、時間、マナー)
- 写真等の資料から気付いたことや疑問点をもとに学習課題を立てて、社会科を中心に学習を進めた。自分たちがこれから訪れる場所であるということが、児童の学習意欲を喚起し、積極的に疑問を交流しあう姿が見られた。
- 社会科の学習内容以外の、檜原村の自然等については総合的な学習の時間を活用して学習した。内容によって扱いを分けたことが、教科の内容の理解の確実な定着につながった。
- 集団宿泊行事を進める学習
 - ・生活班での役割分担をし、班内で分担した役割の準備活動を進めた。
 - ・民宿で生活する際のマナーについて話し合い、実行に向けて取り組んだ。
 - ・自分で考え、行動し、生活することの意味と、心配りをしあわなくてはならないことについて話し合い、事前学習することにより、指示を待たずに活動の準備をすることができるようにした。
- 指導員との顔合わせ
 - ・指導員は子どもたちにとっては先生であること、困ったときや相談したいときにはどの方かに声をかければよいか、具体的な場面を想定して理解できるようにした。

東京都西多摩郡檜原村

参加人数 男子30名 女子29名
計59名

② 事後の学習内容

「プレセカンドスクール報告会」

- ・第3学年の児童に対して「プレセカンドスクール報告会」を行い、学習の課題別グループ毎に発表した。
- ・3学期の保護者会で、保護者に向けてもビデオを上映し、報告する予定である。
- ・発表内容は次のテーマから選んだ。わかってもらうということを目的とするために、活動の内容を分担しての発表とした。

テーマ「檜原村の暮らし」「こんにゃく」「水生昆虫探し」「木工工作」「かぶと造りの建物」「軍道と和紙」

- ・発表は、3～5人程度のグループをつくり、紙芝居をつくって見せたり、表にまとめたり、クイズ形式にしたりと、これまでの学習を生かしながら、グループごとに考えて、自分たちの理解したことが1番分かりやすいと考える方法を取り入れた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、水生昆虫さがし

きれいな水の流れる秋川の源流だからこそ見られる、河原の虫を採取した。眺めているだけでは動物がいることが感じられない川辺ではあるが、石をひっくり返ただけで、多くの生き物をつかまえられることに気づき、児童は秋川の自然の豊かさを、強く実感することができた。一人一人に、採取用の網を持たせたこと、講師の先生が活動前に、採取の仕方をわかりやすく説明してくださったことにより、たくさんの生物をつかまえることができ、いきいきとした活動を展開することができた。

2、浅間尾根のオリエンテーリング

行動班ごとに出発時刻をずらし、ゴールを目指してハイキングした。途中、檜原村の自然の雄大さを感じとることがでるような景色を見ながら、班ごとのペースでチェックポイントを通過し、昼食をとった。道がせまかったり、分岐があったため、自分たちで考えながら2列歩行・1列歩行を使い分けながら歩いていった。山道を歩くことに慣れていない児童のことを思いやりながら歩いており、ゴールした時には、どの児童も達成感を感じていた様子であった。

ただし、駐車場や分岐点との関係で、歩く距離が少し短くなってしまった。今後に向け、コースを検討する必要がある。



【浅間尾根でのオリエンテーリング】

＜学習体験活動＞

1、山地の特色を活かした産業を学ぶ。

コンニャク工場を見学し、檜原村の特色である水はけのよい土地を生かして、コンニャク芋を育て、生の練り芋を使ってコンニャクを作っている様子を学んだ。コンニャク芋の育て方の苦勞を知ったり、コンニャクに隠された工夫を知ったりすることができた。

また、シクラメン栽培ハウスでは、どうして檜原村でシクラメンが多く栽培されているのかや価格設定などに興味を示しており、理解を深めることができた。

2、軍道和紙の歴史を学び、体験を通して理解を深める。

軍道和紙の歴史についての講義を聞き、実際に紙をすいた。講義はとても難しい内容であったが、材料に興味を示し、内容を発表用にまとめた時には、予想以上に理解していたことがわかった。

しかし、「ふるさと工房」が経営を縮小しているため、別の体験学習を検討していく必要がある。



【軍道和紙の材料「とろろあおい」】

3、民宿の方へ質問する時間を設けることで、山地でくらす際の工夫を知る。

民宿の方という、実際に山地に長く生活してきた方々に質問をする時間を設け、自分の課題を追究する時間とした。どの民宿でも、事前に用意してきた質問だけでなく、話を聞きながらさらに尋ねる姿が見られ、意欲的な学習が展開され、生活の様子を詳しく知ることができ「プレセカンドスクール報告会」では、3年生に具体的に説明することができた。

4、図画工作科で学習したことを生かして、オリジナルのキーホルダーを作成する。

都民の森で、間伐材を利用したキーホルダーを制作した。学校でベニヤ板を電動のこぎりでカットし、造形遊びをする学習をしてきたことが生かされ、ほとんどの子どもがスムーズに作り上げることができた。切った後のキーホルダーに、丁寧にやすりをかける姿からは、物づくりの喜びを十分に感じていることを、見て取ることができた。

＜生活体験活動＞

- ・各グループの中で、仕事の役割分担をし、食事の補助や整頓、風呂場の片づけなど、一人ひとりが責任をもって自分の任された仕事に進んで取り組むことができた。

○児童の感想

- ・みんなと泊まることができて楽しかった。自分たちで声をかけ合って行動することができたと思う。
- ・力を合わせてオリエンテーリングのコースを歩ききることができた。
- ・民宿の方が親切にしてくださってうれしかった。
- ・水生昆虫をたくさん見つけることができた。また探したいと思った。
- ・部屋の使い方が悪くて、民宿の方に迷惑をかけてしまった。セカンドスクールで、反省を生かしたい。

○保護者の感想

- ・ 報告会を聞いて、発表が上手なので感心した。
- ・ 3日間の中でたくさんのことを学んできたことがよくわかり、子どもは大きな行事を経験することで成長するのだなと思った。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・ 山地の暮らしについて、子どもたちが知りたいと思うことと、社会科の学習内容とは、必ずしも一致しない。社会科と総合的な学習の時間を関連させて事前学習を組んだことによって、子どもたちの課題意識に沿った学習を展開することができた。
- ・ プレセカンドスクールで学んだことを3年生や保護者に伝えるにあたって、自分たちの選択した方法で伝えることができた。学習のまとめをする時間も十分に確保することができ、実施後の学びを確かなものにすることができた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・ セカンドスクールでは、いくつかの課題の中から選ぶため、個々に行程が異なってくる。プレセカンドスクールで、同じ活動ではあるが、課題をもって追究していく経験を積むことによって、セカンドスクールにおいて課題を選んだり、追究したりする姿勢を養っておきたい。
- ・ セカンドスクールの宿泊地である山形県金峰少年自然の家では、民宿以上に生活の規則が要求される。4年生で、基礎的な集団生活を学び、生活習慣、マナーを見直すことによって、セカンドスクールまでに改善を図ることができると考える。
- ・ 係活動を行動班・生活班共通のものにし、3日間を通して責任をもってやりとげた経験は、今後の宿泊を通しての学習に生かされられると思われる。

○次年度に向けての反省・課題

- ・ 教職員の宿舎と児童の宿舎とを別にして実施したが、具合が悪くなった児童への迅速な対応ができない、看護師の宿泊場所をどうするか、などが課題として出てきた。また、児童の宿泊施設がそれぞれ離れており、緊急の時には対応が遅れてしまうおそれがある。また、民宿は児童が単独で宿泊することを想定してつくられておらず、浴槽など事故が心配な面もある。できれば、教職員とすべての児童の宿舎を一緒にできるようにしたい。
- ・ 浅間尾根のオリエンテーリングは歩きやすく、配慮の必要な児童も楽しく歩けるコースである。しかし、今回はコースが短く、ゴールに早く着きすぎてしまった。浅間尾根のどの部分を歩かせるかについて、再検討が必要であると感じた。
- ・ 「あきるのふるさと工房」経営縮小により、別の体験学習を考えなければならない。また、圏央道開通により、帰校がかなり早くなってしまったので、雨天時を含めたプログラムを再検討する必要がある。

井之頭小学校

10月22日～10月24日(2泊3日)

○日程表

10月22日(水)		10月23日(木)		10月24日(金)	
8:00	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:30	バス乗車 出発	6:30	朝の会	6:45	朝食準備
12:00	片品村花咲森のキャンプ場到着	6:45	朝食準備	7:00	朝食
12:15	開校式	7:00	朝食	7:45	荷物最終チェック 清掃
12:30	昼食	7:40	植物採集などの準備	8:30	朝の会
13:00	キャンプ場散策	8:00	各民宿出発	9:30	野菜畑見学と野菜収穫
14:00	片品川水源見学	8:30	キャンプ場到着 植物採集	10:00	宿の方と昼食作り
15:00	豆腐作り体験	9:30	リース作り		りんごジャム作り
17:00	各民宿に移動	11:30	後片付け	11:45	昼食(各民宿)
17:30	顔合わせ会	11:45	昼食(キャンプ場)	12:00	お別れ会
18:00	健康チェック	12:30	きのこ狩り	13:15	閉校式
18:30	夕食準備 夕食	14:30	りんご収穫体験	13:30	片品村出発
19:30	民宿の方との交流会	17:00	学習のまとめ	17:00	学校到着
20:00	入浴	17:30	夕食準備	17:20	到着式
20:50	学習の記録	18:00	夕食	17:30	解散
21:00	反省会と打ち合わせ	19:00	宿の方への手紙		
21:30	就寝準備	19:30	星空観察		
	消灯	20:00	入浴		
		20:50	反省会 打ち合わせ		
		21:00	就寝準備		
		21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・理科で「星の学習」「月の学習」をした時に、プレセカンドスクールの時に見える秋の星や月について学習をした。
- ・現地での課題別学習にむけ課題を選択させ、インターネットや書籍での調べ学習を行った。課題は、片品の自然や特色の中から選択させた。内容は、①片品の自然について。②りんごについて。③きのこについて。④豆腐作りについて。⑤水源について。などである。
- ・交流会で感謝の気持ちをしっかり伝えられるよう、事前に計画を立てさせたり、準備をさせたりした。
- ・社会科で「水」の学習をした時に水源林について学習した。利根川の上流について触れた。

群馬県利根郡片品村(花咲地区)

参加人数 男子28名 女子17名
計45名

② 事後の学習内容

- ・ プレセカンドスクールでの体験を作文にまとめた。
- ・ 課題別学習班ごとに、事前に調べたことや現地で学んだことを模造紙やパンフレット、紙しばい等にまとめ、次年度体験する予定の3年生に向けて里山の素晴らしさやプレセカンドスクールのよさを発表した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、キャンプ場内自然観察

キャンプ場で、虫探しや植物観察等を行った。バッタやカエルを見つけ喜び、服にくっつく実を見つけ集める子、つるをつたってがけ登りをする子、広場で思いっきり鬼ごっこをする子など、各自、自然に親しむ姿が見られた。生き生きとし楽しそうに過ごしていた。

2、植物採集

里山の森を登りながら、リース作りに使う材料を拾い集めた。リースの輪にするあけびのつるを探したり、どんぐり・松ぼっくり・木の実を拾ったりした。宿の方が、木の実がたくさん落ちている場所に連れて行って下さり、紅葉の美しさを感じながら里山のよさを実感できた。

3、きのこ狩り

里山の森を進みながら、宿の方の案内できのこ狩りを行った。子どもたちはどんなきのこが採れるのかとても楽しみにしていた。ほとんどが、食べられないきのこの収穫となってしまったが、山の中の自然の様子を実感することができた。途中で、いのししやしかの足跡に遭遇するなど、里山ならではの貴重な体験をすることができた。また、わずかではあったが食べられるきのこは、夕食のみそ汁で味わうことができた。きのこが好きになったという児童も多かった。

4、りんご狩り

りんご畑でりんご狩りを行った。木から直接もぎ採る時、歓声が上がった。木にどのようにりんごがなっているのか、りんごのにおい、太陽が当たるところのりんごの色など、実際に見るからこそ気付くことがたくさんあった。3個収穫したが、1個はその場で丸かじりをした。みつの甘さ、歯ごたえ、みずみずしさを味わうことができた。

また、畑を見学することで、りんご畑の美しさに感動する児童もいた。

＜学習体験活動＞

1、片品川水源見学

1学期の社会科で「水」について学習した。その時の学習で「水源林」や「川の上流」について知識があったため、子どもも楽しみにしていた。実際にわき水を飲ませてもらい、わき水のおいしさや水の冷たさに感嘆していた。

2、豆腐作り体験

現地講師の指導で、片品村の特産品である大豆を用いた豆腐作りを行った。水に浸した大豆をミキサーで砕いたり、布でこしたりした。火にかけ煮詰めた後にがりを入れ、豆腐を作った。初めて体験する児童も多く、意欲的な様子であったが、煮詰める時間が長く、キャンプ場で自然散策をさせ時間調整をした。できた豆腐は、夕食で食べた。豆の味がこくておいしいという声が多く聞かれた。できたてのおからも食べることができた。

3、リース作り

現地講師の指導で、植物採集で採ったあけびのつる、木の実、落ち葉を使ったリース作りをした。宿のお父さんに手伝ってもらい、つるを巻いて輪にしたり、山の中で足もとを見ながら探し見つけたどんぐり・松ぼっくり・木の実を拾ってくっつけたりした。各自、思い思いに夢中になって作品作りをしていた。出来上がったリースは、持ち帰ったが家に大事に飾っているという子が多い。

4、野菜畑見学と野菜収穫体験

それぞれの宿の畑で、野菜畑の見学と野菜収穫体験を行った。児童は、どの民宿にも畑があることに驚いていた。実際に植えられている様子を見ることで、トマトやにんじん等の野菜がどんな風に成長するのかが分かった。また、収穫体験を行ったことで、収穫の喜びと大変さを味わうことができた。

＜生活体験活動＞

1、ジャム作り

宿の方の指導で、「りんごジャム」を作った。前日に自分たちで収穫したりんごを使い、児童もとても意欲的に取り組んだ。出来たジャムはその場で食べたり、びんにつめてお土産にしたりした。東京にいる家族のことを思い、一生けん命作っていた。びんには、「井之頭小学校」とかかれたラベルがはってあり、東京に戻っても片品での生活を思い出すことができたと思う。

2、昼食作り

それぞれの宿ごとに、畑で収穫した野菜を使った昼食作りを行った。実際に掘ったじゃがいも、人参、花豆を用いて、うどん・おやき・カレーライス作りをした。うどんとおやきは、生地から自分たちでこねて作った。初めて取り組んだ子が多く、興味津々な様子で意欲的に取り組んでいた。カレーライスは、おかわりをしてたくさん食べていた。

○児童の感想

- ・りんご狩りが1番思い出に残りました。東京のりんごとちがって、とても固くておいしかったです。丸かじりをする時、汁がいっぱいでした。みつもいっぱいでした。りんごジャムを作ったのは、初めてだったので、とても楽しかったです。
- ・きのこ狩りは楽しかったです。急な斜面の山に登りました。ほとんど白いきのこばかりでした。リース作りの材料は、なかなかよいものが見つからなくて大変でした。でも、友達がいろいろな材料がたくさんあるところを教えてくださいました。できたリースは、家に飾っています。
- ・うどん作りでは、みんなで生地をふみました。宿の方が何枚かに切ってくれました。それを機械でうすくしました。その後、機械で麺にしました。食べたらとてもおいしかったです。
- ・野菜を収穫しに行くとき、宿のお父さんがトラックに乗せてくれました。すごく風が気持ちよく、楽しかったです。じゃがいもやにんじんもたくさん採れました。その野菜で作ったカレーライスはおいしくて、たくさん食べました。

○保護者の感想

- ・親元を離れて生活することに不安もあったが、自分から進んで身の回りのことを行うようになった。
- ・きのこ狩りやりんご狩り、野菜の収穫体験を行ってから、食べ物に対して好き嫌いをせずに食べようとする姿が見られるようになった。きのこが食べられるようになった。
- ・友達と協力して過ごす体験を通して、自分のことだけでなく相手を思いやる態度が身に付いたようだ。
- ・プレセカンドスクール以来、家事や手伝いに興味をもち、進んでお手伝いをするようになった。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・事前学習で、片品村の自然、きのこ、りんご、豆腐（大豆）等について自分で課題を設定資本やインターネットを用いた調べ学習を行った。調べる時から、とても意欲的であり、実際に現地で、目で見たり聞いたりしたことで、理解を深めることができた。特に、宿や地域の人から聞いた話は深く心に残ったようだ。

○セカンドスクールとの関連について

- ・来年度への期待感が高まるように、できるだけ不安を抱かないよう班のメンバー構成に配慮した。
- ・自然体験活動や生活体験活動を、授業と関連付けて指導をすることで、プレセカンドスクールへ行く目的を明確にした。来年度も、事前学習をして何を学びにいくのか主体的に考えて活動できるようにしたい。

○次年度に向けての反省・課題

- ・豆腐作りの活動や時間配分等を、もっと吟味し練っていききたい。
- ・昼食作りでは、来年度は郷土料理に限定して取り組ませたい。
- ・時期が例年より2週間以上遅い実施であったため、気温が低かった。一昨年程度の予定が好ましい。

関前南小学校

9月17日～9月19日(2泊3日)

○日程表

9月17日(水)		9月18日(木)		9月19日(金)	
7:30	出発式	6:30	起床・清掃	6:30	起床・清掃
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
10:00	フォレストイングコテージ 着・開校式	8:30	出発	8:30	出発
10:30	林業体験	9:00	都民の森着	9:00	シクラメン栽培見学
12:30	昼食	9:20	三頭大滝ハイキング	9:45	こんにやく工場見学
13:15	水生昆虫観察	11:30	野鳥の話	11:00	檜原小学校訪問
15:15	製材作業見学	12:45	昼食		・弘沢の滝見学
17:00	各民宿着・入浴	13:30	木工教室・ワサビ田見学等		・ドッジボール大会
18:00	夕食	15:30	数馬分校記念館見学	12:20	昼食
19:00	学習の記録	16:45	各民宿着・入浴	13:45	檜原小学校発
20:00	健康観察・明日の準備	18:00	夕食	15:30	学校着・帰校式
21:00	消灯	19:00	学習の記録	16:00	解散
		20:00	健康観察・明日の準備		
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

(1) 社会科において

「わたしたちの東京ー地形の特色を生かす(山地にくらす人々)」の学習では、東京都の山地として檜原村が例として取り上げられている。その学習により、檜原村の地理的・地形的特性は何か、その特性を生かした産業は何か、人々はどのような暮らしをしているのかという明確な学習課題をもって、プレセカンドスクールに臨むことができた。

(2) 理科の学習において

事前に現地講師の大村先生に来ていただき、水生昆虫の定義、種類、生息環境などについて学習した。秋川で観察できる水生昆虫についても具体的に知ることができ、活動への興味・関心を高めることができた。

② 事後の学習内容

・総合的な学習の時間・・・「檜原村を伝えよう」として、プレセカンドスクールで体験してきたことをグループ別でまとめ、4年生保護者と3年生児童を相手にポスターセッション形式で発表した。

東京都西多摩郡檜原村

参加人数 男子31名 女子25名
計 56名

- ・社会科・・・「わたしたちの東京一地形の特色を生かす」の学習で山地以外の地域について学習する際、その比較材料として檜原村と比較させた。
- ・国語科・・・手紙文を書く学習として、プレセカンドスクールでお世話になった方々にお礼状を書いた。また、プレセカンドスクールでの体験を作文に表した。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、三頭山登山(三頭大滝ハイキング)

雨天のため、予定していた山頂までの登山は行わず三頭大滝までのハイキングとした。雨の中ではあったが、都民の森スタッフの浦野氏にガイドしてもらいながら、じっくりと自然観察を行うことができた。また、山々から雲がわき立つ様子やクマビルの捕食行動など雨の日ならではの山の表情を見ることができ、自然の不思議さや雄大さを感じることができた。

下山後、浦野氏からいろいろな野鳥の生態について話をしてもらった。野鳥の話だけでなく、浦野氏の研究者としての経歴や生き方の話も実に興味深く、子どもたちも真剣な面持ちで聞き入っていた。

＜学習体験活動＞

1、林業体験

はじめに地元の熟練した講師から森林の保全や管理、植林などについて話を聞いた。次に杉林に出向き、講師の指導の下で下草刈りや除伐を行った。また、チェーンソーを使った伐採の様子を見せてもらった。その後、材木店での製材作業を見学し、丸太が角材に加工されていく様子を見ることができた。

一連の活動を通して、林業に関わる人々の思いや願いを知るとともに、林業と生活との関わりについても理解を深めることができた。



【ノコギリを使い、低木を切る】

2、水生昆虫観察

秋川で、講師の指導を受けながら水生昆虫を探すことから始めた。子どもたちは何とかして水生昆虫を捕まえようと、大きな石を裏返したり、何度も網をすくったりしながら生き生きと活動していた。初めて見る水生昆虫は子どもたちにとって新たな発見であり、ケースの中で動く様子を驚きと感動の表情で見つめていた。

3、キーホルダー作り及び自然観察(都民の森)

木工教室では、杉板に型どりをしたものを電動のこぎりで切ってキーホルダーを作った。事前に学校で電ノコの学習を行っていたため、作業は順調に行うことができた。子どもたちは自分で作り上げたキーホルダーを見つめ、手ざわりや木の香りを確かめながらうれしそうにしていた。また、施設周辺の自然を観察し、山林のレクリエーションの場としての利用のほかに、ワサビ田や炭焼きなど地理的条件を生かした仕事の様子を見ることができた。

4、こんにゃく工場見学(井上食品)

こんにゃくの作り方は事前に学習していた部分もあったが、実際にこんにゃく作りの様子を見ることによって、より実感をもって理解することができた。また、社員の話から、こんにゃくが特産品である理由として、檜原の気候や地形などの地理的特徴について理解を深めることができた。

5、シクラメン栽培見学(高橋園芸店)

檜原の特性を生かしたシクラメン栽培について知ることができた。講師の話によると、シクラメン栽培の経営は年々厳しくなっており、現在は高橋園芸店1件のみである。また、社会の変化に合わせて商品の種類も次々に変えていかねばならない。明るく楽しい話だけでなく、働く人々の苦労話を聞くこともよい学習となった。



【ハウス一面に咲くシクラメン】

＜生活体験活動＞

1、数馬分校記念館

元数馬分校の教員であるスタッフが館内を案内してくれた。館内の展示物を見たり、スタッフの話を聞いたりしながら、その土地で人々がどのような暮らしを送ってきたのかを学ぶことができた。

2、檜原小学校訪問

檜原小学校の4年生と合同で弘沢の滝見学・ドッジボール大会を行った。いずれもコミュニケーションをとりやすい活動であり、子どもたちは自然豊かな地域に住む同年代の仲間の素顔にふれることができた。

檜原の子どもたちにとっては、他地域の子供と大人数で活動すること自体が貴重な機会であるとともに、特に滝ガイドは檜原村への自信や愛着につながるものとなったと考える。

○児童の感想

- ・林業の仕事は、毎日大変なのに自然のことを考えながらがんばっているから感動した。
- ・三頭大滝ハイキングでは、滝の音を聞いたり、自然の香りにつつまれたり、雲より上に行っ

たりして、口では言えなかったが「すごいや!」と思った。滝の水は宝石のように光っていた。きれいで美しい滝が見られてよかった。

- ・ 宿舎が一番楽しかった。宿舎の人がたくさんお話をしてくれたので、楽しく過ごせた。
- ・ 檜原小の美里さんが滝案内のときくわしく説明してくれたり、お別れの時もバスまで来て手をふってくれたりした。いい友達ができてよかったと思った。

○保護者の感想

- ・ 豊かな自然の中で、本人にとって初めての体験をたくさんしてきたのでしょうね。山や森、川など自然に対しての興味が一気に広がったようです。「社会科が好きになってきた」と言うようになりました。
- ・ 子どもがみんなの前であいさつをすることになり、家で一生懸命練習していました。自分の役割を果たそうと自覚をもってがんばっている姿を見てうれしく思いました。
- ・ 行く前には家を離れての宿泊が不安だったようですが、何事もなく帰ってこられたことに、本人も自信をもったようです。食事の面でも、以前自分から食べようとしなかったものを進んで食べるようになりました。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・ 発表会で伝えたいことを事前（出発前）に考えておくことで、子どもたちは現地での学習課題を明確にするとともに、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・ 発表資料の作成に向けて必要な写真をとったり、質問やインタビューをして情報を集めたりするなど、自ら課題を解決しようとする態度を育むとともに、その力を伸ばすことができた。
- ・ 発表資料を言葉や文の使い方、絵や図の載せ方などを工夫してまとめたり、人前で発表する経験を重ねたりすることで、表現力を高めることができた。

○セカンドスクールとの関連について

- ・ 活動面では、鳥海山登山への精神的・肉体的な準備として三頭山登山を計画した。さらに、セカンドスクールでは農業体験（稲刈り）・漁業体験（鮭のふ化、捕獲）を行うものの、林業体験はできないため、林業体験を行った。
- ・ 子どもたちにとって初めての集団宿泊体験なので、そのための心構えや集団行動のしかたの指導に重点をおいた。また、自分で持ち物の準備や片づけなどができるよう意識付けをした。
- ・ お世話になる（なった）方々に対して、感謝の気持ちを持つとともにあいさつや礼儀正しい行動を心がけるよう指導した。

○次年度に向けての反省・課題

- ・ 檜原小学校との交流をより充実したものとしていくために、事前の交流の充実等も考えていきたい。

桜野小学校

9月17日～19日(2泊3日)

○日程表

9月17日(水)		9月18日(木)		9月19日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
7:45	学校発(バス)	7:00	朝食・片付け	7:00	朝食
9:30	アクアライン川崎 海ほたる(休憩) アクアライン木更津	9:00	集合・ホテル発	8:00	荷物の準備・大掃除
11:15	野鳥の森着 ハイキング・昼食	9:15	赤山地下壕見学	8:30	ホテル発
14:15	野鳥の森発	11:30	ホテル着・昼食	8:45	沖ノ島着
14:45	砂山着・砂山すべり体験	12:45	沖ノ島着 沖ノ島探険(1日目)	11:30	ホテル着・昼食
15:30	ホテル着・開校式・入浴	16:00	ホテル着	12:30	ホテル発
18:00	夕食	17:45	入浴・活動のまとめ	13:30	アクアライン木更津 海ほたる(休憩・見学)
19:00	活動のまとめ、海ほたる鑑賞	19:00	夕食	15:00	アクアライン川崎
20:30	健康観察・就寝準備	20:00	活動のまとめ	16:00	学校着・解散式
21:00	就寝	20:30	健康観察・就寝準備	16:30	解散
		21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

(1) 館山の自然を知ろう(総合的な学習の時間)

館山について、様々な視点からテーマを考え、調べ学習をした。調べたことをもとに自然など様々な事象に進んで働きかけていく意欲を高めていくことをねらった。海の生き物について調べたり、野鳥の森の鳥類について調べたり、ビーチコーミングについて調べたり、石・地形・地質・砂山について調べたり等、様々なテーマから館山に迫ることができた。

(2) 館山について詳しくなろう(社会科)

事前に出前授業として、館山市の観光協会の方々に学校に来ていただき、二時間の授業をしてもらった。市の特徴をスライドで細かく、分かりやすく説明していただき、そのため、事前の取り組みが活発になった。

(3) 集団生活における指導(学級活動)

児童が生活の流れやその日の活動の特色やねらいをつかみ、主体的に活動できるように、事前に説明をした。また、係活動として、プレセカンド期間中の役割を分担し、仕事の内容について話し合う場を設けた。

② 事後の学習内容

- ・ 一番の思い出を作文にまとめる。
- ・ 拾ってきた、貝、木の実等を使って、作品を作った。
- ・ 共通のテーマから、それぞれの発表形式にまとめた。
役割分担をし、発表した。
- ・ 保護者へ…自分たちの生活の様子を一人ひとりが感想を書き、A4用紙6枚にカラー写真と共に載せて、「プレセカンド報告」として配った。

○特色ある活動内容

＜野鳥の森＞

1時間程度で回れるハイキングコースを、班ごとに時間差をつけ、絵地図をもって歩いた。途中の展望台からは、鏡ヶ浦をきれいに望むことができた。

グループでの行動は協力しながら進むことができた。ただ、グループによっては、途中で迷ってしまいみんながバラバラになりかけたようだったが、指導員や教員の助けをかりながらも、最後は協力して無事に歩き切ることができた。

＜砂山滑り体験＞

滑る地点に行く間も、長く緩い砂山の傾斜を、息を切らせながら登った。実際に滑る地点に到着すると、始めはあまりの急傾斜に立ちすくんでいた子どもたちだったが、砂山の急斜面を何度も登り夢中になって砂を体中で体感していた。海から自然に吹き付けた砂によってできたものだという地元の方のお話や、30年後には砂山が無くなってしまうかもしれないというお話も聞くことができ、自然の雄大さを感じながらの活動となった。

＜赤山地下壕見学＞

天候不良のため、地引き網体験を変更して、赤山地下壕の見学となった。出かける前に、ホテルの方の好意により、地元のガイドさんを急遽手配していただいた。子どもたちは、6グループに分かれ、詳しく説明を聞く事ができた。地元の方の温かさを身にしみて感じるとともに、6つのグループ分かれて聞いたことで、細かい所まで子どもたちが興味をもって取り組めたのでありがたかった。

中に入ると、寒いぐらいの気温と真っ暗な所なので、怖がる子どももいたが、説明を聞いてるうちに、そんな事も忘れ興味深そうに見学することができた。

<沖ノ島探検・ビーチコーミング>

無人島・沖ノ島探検の1日目は、地元の「海の鑑定団」の方々から島をぐりと一周しながら島の概要や館山の海の生き物について教えていただいた。鑑定団の方々のお話にとっても興味をもって聞き入っていた。

歩いて一周できる島の海岸線は、場所によって、いろいろな様子が見られた。また1日目と2日目では時間差があり、海水の干満の差で海岸線には様子の違いが見られた。ゴツゴツした岩の潮だまりで生き物を見つけたり、地層の見える洞くつを見学したり、貝殻やシーグラスが散りばめられている砂浜でビーチコーミングをしたりと豊かな自然の中で地形や海の生き物のことを学びながら活動を思う存分楽しむことができた。



【時間を忘れて貝拾い】

○児童の感想

- ・山を登るのは大変でした。でも、がんばって歩いてゴールまで行きました。がんばってよかったなと思いました。
- ・野鳥の森のハイキングは鳥の鳴き声はしたけど、鳥を見ることはできませんでした。展望台で見たけしきはとてもきれいだったです。
- ・砂山すべり体験で大変だったのは、すべったあとに登るところです。ソリをかついで上に行こうとしても下に落ちてのぼれませんでした。
- ・わたしは、赤山地下ごうに行きました。赤山地下ごうは、昔、海の底にあったそうです。いろいろ学べて楽しかったです。
- ・赤山地下ごうは、暗くてこわかったけど、とても広くて、ぬけあながたくさんたくさんありました。かべには、ツルハシのあとがあり、おもしろかったです。
- ・沖ノ島で楽しかったのは、ビーチコーミングです。宝贝は見つからなかったけど、いろいろな貝がひろえてうれしかったです。
- ・沖ノ島のビーチコーミングでは、貝を拾ったりどうくつ探検をしたりしました。貝拾いは、自分ではいっぱいとれたと思います。
- ・電流をとおすと、海ホタルは青くきれいに光っていました。海ホタルは小さいけど、一つひとつが青く光っていてとてもきれいでした。
- ・海ホタルは、しげきをあたえとどうして光るのかなあと思ったら、てきから身を守るためだっていうのにおどろきました。

- ・バスの中で一番楽しかったのは、いつどこゲームです。またやりたいです。ほかにも、ビンゴゲームやきおくりょくゲームもやりました。楽しかったです。ちょっとよってしまいました。
- ・ホテルでは、部屋が一番広かったので、となりのへやの人とげきをしたりしました。さらに、一日目の夕焼けを見ました。キレイかったです。
- ・ホテルの部屋では、時間を有こうに利用して明日の準備をしたりしました。ぼくは、時間をむだにしなければ、なんでもできると思いました。

○総合的な学習の時間との関連について

1 学期の総合的な学習の時間では、進んで課題を見つけ、関心を深めながら学習を進めることができ、自然や周囲の人に進んではたらきかけていけることをねらった。現地では、一人一人が自分の課題意識をもって、それぞれの活動に取り組んだ。現地指導員へも積極的に自分の疑問を投げかけ、課題を解決することができた。学校に戻った後は、事前学習と現地での体験をまとめ、自分の体験をより明確に示すことができた。

事前・現地・事後を通して、「課題をつかむ、調べる、体験する、まとめる、伝える」という学習の流れを体験できた。これは、今後の総合的な学習を始めとする様々な学習活動に有効的な体験である。

○セカンドスクールとの関連について

- ・学年合同で様々な活動を行うことで、連帯感を育て、集団として活動すること、協力することのよさを味わえるようにすることができた。
- ・現地指導員や生活指導員など、大人との関わりに目を向ける指導を重ねた。子どもたちは、自分たちの活動を支える様々な方々の願いや努力を知り、感謝の気持ちをもつことができた。
- ・公共のマナーや集団生活のルールについて、十分に指導し、活動に取り組ませた。その結果、宿泊を伴う学習の際、子どもたちへ配慮することや課題点も明確になり、来年度の長期宿泊に向けて、今後の指導の参考になった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・野鳥の森での活動は、班行動のよさを味わう活動であったが、時間が少し短かった。もう少し出発の時刻を早くして、ハイキングできる時間を増やしてもよい。
- ・館山でしか味わうことのできない貴重な砂山での活動の時間も、もう少し長くとってもよい。
- ・雨天のため急遽予定を変更することになったが、雨の量や、その日の天候の刻々と変わる状況から、判断を下すのに迷いが生じてしまった。

実踏の時とは、当日のようすや、観光協会からの新しい情報等もあり違う状況変化があった。最初の予定を固定してしまわないで、当日でも多少変更が可能な状態にしておいても、良かったのかとも感じた。